

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2024 年 1-2月

「わたしたちの高い召し」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「キリストにおける高い召し」

3

朝のマナ

「わたしたちの高い召し」

4

Our High Calling

力を得るための食事

「白菜と豆腐のチヂミ」

66

レシピ

お話コーナー

「愛のテスト(Ⅱ)」

68

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2023 年 12 月 3 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

キリストにおける高い召し

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」。…しかしパウロは、…彼らに確証を与えて言った。「神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである」。

パウロは兄弟たちに、彼らの言行の影響についての反省を促し、たとえ、どんなにその事自体は誤っていないように思われても、…信仰の弱い者の良心を傷つけたりするようなことは、何一つしないようにと勧告した。「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。ユダヤ人にもギリシヤ人にも神の教会にも、つまずきになってはいけない」。

パウロは、教会を人間の体と比較することによって、キリストの教会のすべてのメンバーの間における密接で調和した関係を、適切に説明した。彼は、次のように書いた。「わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。…肢体は多くあるが、からだは一つなのである。…神は劣っている部分をいっそう見よくして、からだに調和をお与えになったのである。それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。…あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である」。

次に、パウロは、キリストのすべての弟子たちが持つべき愛の重要性について語った…「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない」。最も純粋なよろこびは、最も深い謙遜から生じる。最も強く、最も高潔な品性は、忍耐と愛と、神のみこころに対する服従という基礎の上に築かれるのである。…

コリントの信者たちの道徳的標準の低下に伴って、ある人々は、信仰の基本的な特徴のいくつかを放棄してしまった。ある人々は、復活の教理さえ否定するに至った。…使徒パウロは、コリントの兄弟たちの心を、復活の朝の勝利へと向かわせた。…しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わったのである」。

忠実な者を待ち受けている勝利は、実に輝かしいものである。パウロは、コリントの信者たちの可能性を認め、利己心と情欲から彼らを引き上げて、永遠の生命の希望に満ちた輝かしい生活へと彼らを導こうと努めた。彼は、彼らに、キリストにあつて受けた高い召しに対して忠実であるようにと、熱心に勧めた。(患難から栄光へ上巻 340-344)

あなたにできることを告げよう。あなたはキリスト・イエスにおける高い召しの賞与を目指して押し進むことができる。あなたは自己に死ぬことができる。キリスト・イエスにあつてクリスチャン品性の完全へ向かって成長しようと求めることはできる。これがわたしたちの働きである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 920)

わたしたちの高い召し

Our High Calling



1月1日

幸福な新年を！

「われらにおのが日を数えることを教えて、知恵の心を得させてください。」(詩篇 90:12)

今、古い一年が過ぎ去り、新しい年があなたの前に開かれている。今年の記録はどのようなものになるだろうか。この純白なページにわたしたち一人びとりは何を書き込むであろうか。過ぎ行く一日一日をいかに過ごすかがこの問いに答えるであろう。……

汚れと自我と誇りから清められた心をもって新しい年に入ろう。すべての罪深い放縦を捨てて、キリストの学校において忠実な勤勉な生徒になることを求めよう。新しい年の汚れていないページがわたしたちの前に開かれている。わたしたちはその上に何を書いたらよいだろうか。……

正しい目的と、神の前での申し開きをする義務をもっている者としての純粋な動機をもってこの一年を始めなさい。すべての者は、自分の行為が記録天使のペンによって日ごとに記録されていることを覚えなければならない。審判者がその座につき、その記録の書が開かれるとき、あなたは再びそれに直面しなければならない。……

もし、平和と、光と、真理の源である神とつながるならば、聖書はわたしたちを通して流れ、わたしたちのまわりの人々に元気を与え、祝福をもたらすであろう。今年はわたしたちにとって人生の最後の年かもしれない。充分に考えてこの年を迎えようではないか。誠実と尊敬と慈悲とが、わたしたちのふるまいのしるしになっているだろうか。

わたしたちのために尊い生命を下されたお方に、何も残さずすべてをささげよう。……神が託しておられる財産をすべてささげよう。何にもまして、わたしたち自身を自由意志のささげ物としてささげよう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889 年 1 月 7 日)

この年の初めが忘れられないものとなるように—キリストがわたしたちの中に来られ、「安かれ」と言われるときとなるように(ヨハネ 20:19)。兄弟姉妹方よ、あなたがた一人ひとりにそしてみなに、幸福な新年を祈る。

「わたしたちは年月ではなく行動に生きる、呼吸ではなく思考に、時計の文字盤ではなく感性に生きるのである。
わたしたちは時間を心臓の鼓動によって計るべきである。
最も生きている人というのは、最もよく考え、
最も高貴なものを感じ、最善を実行する人のことである」

(ビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 1 月 3 日)

1月2日

どちらの道へ

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは行って行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そしてそれを見いだす者が少ない。」(マタイ 7:13、14)

あなたの前に2つの道がある。広い道は放縱の道であり、狭い道は自己犠牲の道である。広い道には、自我と誤りと世に対する愛を持って行けるが、狭い道を歩くにはすべての重荷を捨てねばならない。罪はたやすくまといつくものである。あなたは死に至る道と、栄光と不死に至る道のどちらを選んでいるのだろうか。(ユース・インストラクター 1902 年 2 月 13 日)

わたしたちがいま生きているこの時ほど世界歴史で厳粛な時は、今までになかった。わたしたちが生きている現代ほど厳粛な時は、今までになかった。わたしたちの永遠の利益は危うくなっている。わたしたちは、その召しと選びを確実にすることの重要性に目覚めねばならない。わたしたちの永遠の関心を単なるありそうなことと考えてはならない。わたしたちは真剣でなければならない。わたしたちは何者であるか、何をしているのか、将来の行動指針はどうあるべきか、これらの質問はみな、長い時間をかけて考えるものである。だからわたしたちは、ぼんやりと無関心に平然としてはいられない。それによって、一人びとりは「わたしにとって永遠とは何か」と尋ねなければならない。わたしたちの足は天に至る道を歩いているのだろうか。それとも地獄に至る広い道を歩いているのだろうか。……

クリスチャン生活に成功する人は、キリストを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストに住む者のみが真の人生は何であるかを知り得る。彼らは、宗教の真価を悟る。彼らはその感化と財産と能力とをささげ、彼らを贖うために死なれたお方のみ心を知りこれを行うために尽くす。彼らは旅をしなければならない道が、まっすぐで狭いことを知っており、滅びにいたる広い道の誘惑に抵抗するとき、多くの反対と試練に会わねばならないことを知っている。しかし彼らは、イエスの足跡を認め、主なる救い主において上に召して下さる神の賞与を得ようと努める。彼らは、天に至る忠誠の道を選ぶのである。(ビュー・アンド・ヘラルド 1891 年 5 月 26 日)

神のあわれみで囲まれる

「悪しき者は悲しが多い。しかし主に信頼する者はいつくしみで囲まれる。」(詩篇 32:10)

わたしたちはしばしば神に仕えるものは未信者よりも多くの困難に遭遇すると考える。そして、その道はゴツゴツした道だと考える。……しかし、罪人は世的な楽しみと喜びを純粋に味わっているだろうか。否。罪人も恐れ悩むときがある。彼らは、神を恐れるが神を愛さない。

墮落した人々は失望、困惑、物質的な損失、貧困、苦痛の心配がないであろうか。多くの者は、長い病気に苦しみながら、強い、寄りすがる全能者もなく、弱さを助け支える上からの力も恵みもない状態である。彼らは自分の能力に頼っている。彼らは、将来を見ても何の慰めもなく、恐ろしい不安に苦しめられており、そのあぐく死のために目を閉じ、復活の朝に対する喜びも見出すことがない。彼らは第1の復活にあずかる励ましの望みを持たないからである。……

クリスチャンは病氣と失望と貧困と非難と困難に悩まされる。しかし、その最中にあっても神を愛し、神のみ心を行うことを選び、神の賞賛という最高の賞与を求める。試みと戦い、生活の状況が変わるとき、彼は一人のお方がおられてすべてを知っておられ、悲しみ悩む者の叫びにも耳を傾けて下さり、すべての悲しむ者に同情し、すべての苦しむ心に慰めを与えられることを知っている。……

これらすべての苦しみの中にあって、クリスチャンは強力な慰めを持っている。もし神が彼に死の床で目を閉じる前に長い苦しい病氣に悩むことを許されたならば、クリスチャンは快活にそれらすべてを耐えることができる。……彼は天よりの満足をもって未来を瞑想する。墓の中の短い休息の後に命を与えるお方が墓の束縛を解き、捕らわれた者を開放し、塵の床より不死の、痛みと悲しみと死を知らない彼を取り出して下さるであろう。ああ、クリスチャンの希望は何とすばらしいものであろうか。このクリスチャンの希望がわたしの、そしてあなたのものとなることを祈る。(手紙 18、1859 年)

1月4日

わたしたちを元気づける祝福

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたにより頼む者のために、人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大いなるものでしょう。」(詩篇 31:19)

神はわたしたちの歩む道すがらいたるところに祝福をまきちらし、わたしたちの旅路が輝かしいものとし、わたしたちの心が神を愛し、誉めたたえるように導かれる。またこのお方はわたしたちが救いの井戸から水をくみ、わたしたちの心が生き返るようにと望んでおられる。わたしたちはシオンの歌を歌い、自らの心を元気づけ、他の人の心も元気づけることができる。望みは強められ、暗きは光に変わるのである。神は暗黒の夜にわたしたちを残したままにはなさらなかった。よりよい国、すなわち天のふるさとを求める旅人また寄留者として、わたしたちにすべての重荷を軽くする尊い約束を与えずにはおかれなかった。わたしたちの道の両脇には美しい花のような約束が1面に咲いている。いたるところに咲きほこり、よい香りを放っている。(手紙 27、1886 年)

わたしたちは自分たちの持っていないものを欲しがり、日ごとに受けている祝福を軽く見過ごしにするために、いかに多くの祝福を失っていることであろう。わたしたちの道に厚く敷かれている日常的な祝福は忘れられ、過小評価されている。わたしたちは自然の中の神の謙遜な被造物より教訓を学ぶであろう。暗い低いところにある花は、得られる限りの光に対して反応し、葉に力を送る。かごの鳥は、捕われのかごの中で歌を歌い、日の当たらない部屋で日の輝く王の部屋に住んでいるかのように歌っている。神はわたしたちが主の恵みを賢く上手に用いるかどうかを知っておられる。恵みはわたしたちが悪用するために与えられるのではない。神は、絶対的にご自分の約束の言葉に信頼し、そこから慰めと希望と平安を集める感謝に満ちた心を受えられる。そして、神はわたしたちにその愛の深さをさらにあらわしてくださるのである。(ビュー・アンド・ワールド 1887 年 4 月 12 日)

もし、わたしたちがなすべきほどに神のみ名を讃美するならば、愛の炎が多くの心にともされるであろう。……神への讃美がわたしたちの心と唇から絶えてはならない。これは悪いうわつた会話におぼれる誘惑に抵抗する最もよい方法である。(手紙 42、1900 年)

主はわたしたちが上を見上げ、そこに天国があることを主に感謝するように望んでおられる。……生きた信仰を通して、神の豊かな約束をつかみ、朝から晩まで絶えず感謝しよう。(ビュー・アンド・ワールド 1887 年 4 月 12 日)

避けるべき危機

「主よ、わたしは知っています、人の道は自身によるのではなく、歩む人が、その歩みを自分で決めることのできないことを。」(エレミヤ 10:23)

ナイト峡谷を通る道は、未経験者にとって危険な道であって、雨期は特に通過できないほどである。わたしたちはこの部分で案内人に非常に感謝した。(注1) わたしはあえて右や左を見て景色を眺めようとはしなかった。それどころか綱をしっかり握って狭い道を懸命に馬を導いた。わたしは先導者に従った。ここにおいての不注意は致命的なものとなる。もし正しい道から馬がそれてしまったら、わたしたちは険しい断崖になげこまれ、峡谷の底に落ちてしまわねばならない。

息も止まるような沈黙の中で馬を進めながら、わたしはこの危険な旅行がクリスチャンの経験を力強く教えていることを考えずにはおられなかった。わたしたちは最後の時代にあって、危機のただ中で人生の旅行を続けている。わたしたちは1歩1歩、注意深く進まねばならない。そして、大いなる先導者(キリスト)に従っていることを確かめねばならない。懷疑と不信心と放蕩と犯罪はどこにでもある。自我に支配されることを許し、確実な破滅の断崖に突っこむことは容易なことであろう。……

無限の愛は主の贖われた者の上に道を備え、彼らが地上から天にいけるようになされた。道は神のみ子である。天使はわたしたちの誤りやすい足を導くためにつかわされた。天国の輝かしいはしごは、すべての人の道にかけられ、その道が悪徳と愚かさから守られるであろう。人間はまず十字架につけられた贖い主を踏みにじらないでは、罪の生活に進むことはできない。わたしたちの天の父のみ声はわたしたちをここに来るように呼んでおられる。……謙遜により頼む者は、平和な道へ導かれ守られる。しかし無限の知恵を持っておられるお方は、人間が天の最も尊い賜物を受けるように強制したり、尊い犠牲を払って造られた道を歩むように強制したりされない。すべての者は天国に至る狭くても輝かしい道か、広くて安易な死にいたる道かを自分で選ぶことが許されている。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年1月26日)

(注意1) 1881年12月に、ホワイト夫人とその友人は、ヒーズパークからカリフォルニアのセントヘレナに旅行した。上記の経験はその時のことである。

1月6日

愛がかけた橋

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」(ヨハネ第一 4:10)

神はそのみ子をこの世界にお送りになったがゆえにこの世を愛しておられるのではなく、この世界を愛されたので、み子をおつかわしになったのである。それは神性が神性をしっかりとつかんでいながらその一方で、人性におおわれた神性が人性に触れることのできるためであった。罪が人間と神の間に深いみぞを作ったので神の慈悲によって、この深淵に橋をかける計画が立てられた。神はどんな材料を使われただろうか。それはご自身の1部であった。み父の栄光の輝きがこの良心の麻痺した、のろいによって破壊された世界に來られ、その聖なる品性と、聖なるからだをもって橋とされた。……天の窓は開かれ、天のいやしと恵みの雨は行き暮れた世界に降り注がれた。……

もし神がここまで与えてくださらなかったとしたら、わたしたちは救われることができなかったのである。しかし、神はわたしたちの世界にあふるるばかりにお与えになったので、このお方はもっとわたしたちを愛することがおできであったのに言うことはできない。そうであれば、第1の恩恵期間がなくなってしまうたら、第2の恩恵期間があるべきだという立場を取ることは何と愚かなことであろう。神はその慈悲をすべてお用いになって、……1つの偉大なる賜物を通して全天を人間の上に注ぎだされた。この賜物の価値を理解することによってのみ、わたしたちは無限を理解することができる。ああ、神の愛の高さ、広さ、深さよ！有限な存在がどうしてこれを理解できるだろうか。……

神は、人間のすべての愛情、全心、全霊、全精神、全力を要求しておられる。人にあるすべてを要求しておられる。なぜなら、神は時を移さずご自分のものをすべてわたしたちに与えることによって、天の全財宝を注ぎ出し、何ひとつ残さず、天の与え得るものを極限まで与えてくださったからである。……

わたしがこの主題について書き始めたとき、幾度となく、外側の縁まで行こうと試みたがだめだった。わたしたちが天の住まいに到着するとき、小羊の血で白くされ、白い衣を着ている人々を、イエスご自身がみ父のみ前に導いて下さる。「それだから彼らは、神のみ座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。み座にいます方は、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。」(黙示録 7:15)。(手紙 36 a, 1890 年)

神の大いなる賜物

「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する。」(コリント第二 9:15)

信仰によってキリストを受ける者は、商人が無限の代価を払って買い取った尊い真珠を見るように、天を見上げるであろう。そして、キリストを見出した者は、天の宝を発見したことに気づくであろう。彼らは、宝が埋もれている畑を買うため、持っているすべてを売ろうと熱心になるであろう。彼らが、神の愛を瞑想し、救いの計画を知ようになり、キリストの謙遜の神秘が明らかになり、神が払われた犠牲を認めるとき、主のために捨てたものが何も惜しいとは思われないようになる。彼らが神の素晴らしい愛を考えれば、考えるほど、それはますます広くなり、神の栄光は死すべきわたしたちにとって、見るができないほどの栄光に満ちたものとなる。

天の主なる神は、宇宙のすべての富を集め、失われた人間という真珠を買うためにそれを支払われた。み父は聖なる財源をことごとくキリストのみ手にあずけ、墮落した人類の上に天の最も豊かな恵みが注がれるようになされた。そのふところにおられるみ子をこの世につかわすより大いなる愛を、神は表すことがおできにならない。この賜物は、神がなし得ることは何ひとつ残さずになされたこと、また何1つ保留してはおられないことを人間が納得し、1つの大いなる賜物の中に全天が注ぎだされていることをはっきり理解するために、人間に与えられた。現在と永遠の幸福は、神の愛を受けることと、神の戒めを守ることにある。

キリストは、わたしたちの贖い主であられる。主は、肉体を取られ、わたしたちのうちに宿られた言葉である。主は、わたしたちがすべての不義を洗い清めることのできる泉である。主は人の和解のために与えられた尊い犠牲であった。天の宇宙世界と罪を知らない諸世界とこの墮落した世界、そして悪の連合軍も、次のように言うことができないのである。すなわち、神には神がなされた以上のことが、人間を救うためにまだ残っていると、だれも言うことができないのである。神の賜物は、決してこれ以上はあり得ないし、また、これ以上豊かな愛を示すことはできないのであった。カルバリーは神の働きの冠である。……主は、ご自分の弟子達が父なる神についての知識を通して、神と共に喜ぶことを望んでおられる。(ユース・インストラクター 1895 年 10 月 17 日)

1月8日

青年への召し

「主なる神よ、あなたはわたしの若い時からのわたしの望み、わたしの頼みです。」
(詩篇 71:5)

イエスは、さ迷う者に「わが子よ、あなたの心をわたしに与え」よ(箴言 23:26)、と言っておられる。……青年はイエスの愛なしには幸福になれない。イエスはあわれみと優しさをもって、さまよえる者の告白を聞き、彼らの悔い改めを受け入れようと待っておられる。主はちょうど愛する子供が自分を認めてほほ笑むのを母親が期待して待つように、わたしたちから感謝の気持ちちがもどってくるのを、期待して待っておられる。大いなる神は、ご自身を父と呼ぶようにとわたしたちに教えられた。神は、あらゆる試練と誘惑の中にあっても、神の愛が熱心に優しく注がれていることをわたしたちが理解するように望んでおられる。……

青年は絶えず恵みに、また真理の知識に成長すべきである。すべての富と知恵であられる万物の創造主は、青年を導くと約束された。青年のために悪の力に打ち勝たれたお方が、青年の尊敬を要求しておられる。命と平和を正しく知っておられる主の知識よりも高い知識はない。救い主の愛より純粋な深い愛はない。
……

あらゆる所に不注意な者の足をわなにかける誘惑がある。不敬虔な墮落した青年は、誤った道に他の人を導く強い影響力を働かせる。ここにサタンの成功している機関がある。……世を愛する者は、しばしば友情の衣をまとって近づいて来て世の習慣と行動を紹介しようと努める。真の兵士は、これらのそそのかしに抵抗して堅く立たねばならない。……

サタンはわたしたちの弱点を攻撃するが、わたしたちは敗北する必要はない。攻撃は激しく長いかもしれないが、神はわたしたちを助け、神の力を通して勝利させて下さると約束しておられる。……神のみ言葉に対する概念と約束は、聖なる力をもって敵に当たる武器となる。……サタンはすでに神の真理によって満たされている心を見出すとき、当惑し、敗北させられる。わたしたちは、恵みのみ座に行かなければならない。熱心と絶えざる祈りと人間の弱点を全能者と結びつけることが、わたしたちを勝利に導くであろう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 1 月 19 日)

わたしの選んだもの

「もしあなたが主に仕えることを、こころよしとしないならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、今あなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア 24:15)

この世界には2種類の人々がいる。その1つは、十字架にかけられ、よみがえられた救い主を見上げる人々からなっており、もう1つは、十字架から顔をそむけることを選び、悪魔の影響の導きに従うことを選んできた人々である。後者の種類の人々は、神の民の前につまずきの石を置くことに忙しく、それによって彼らをつまずかせ、神への服従の道から、不従順と死の広い道へと転向させようとしている。……

サタンがその欺きに対して自分を保護していない人々をだまし、不義を魅力的なものに見せるため、多くの人はそちらを選ぶ。そして彼は神の子だと告白しているながら聖化されていない男女を、特別な方法で欺く。ある方法を通して、または別の方法を通して、敵はすべての者、選民さえも惑わそうと働いている。わたしたちは、神性にあずかる時にのみ、魂の敵がもたらす破滅的な影響力から逃れることができる。

サタンは、罪にふけるようにとわたしたちを誘惑することによって、魂の防壁をこわそうと努めているので、生きた信仰によって神とのつながりを保ち、神の力は、わたしたちにすべてのからみつく罪に勝利させることができるという確信を持っていなければならない。わたしたちは悪から逃れ、義と柔和と聖を求めなければならない。……

今は、わたしたち一人一人がどちらの側に立つかを決定すべき時である。サタンの代理者たちはサタンによって働きかけられることを許してしまう一人ひとりの思いに働きかける。しかし天の使者たちもそこにおいて、キリストを喜んで受け入れるすべての人に、神の栄光の輝かしい光線を伝達しようと待っているのである。(原稿 43、1908)

キリストの僕として数えられるか、サタンの僕となるかを選ぶのはわたしたちである。毎日の行動によってだれの僕であるかが表されている。……

愛する若い読者よ、あなたはどちらを選んだだろうか。あなたの毎日の生活の記録はどんなものであろうか。(ユース・インストラクター 1883 年 11 月 21 日)

1月10日

安全な案内者

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光を持つであろう。』」（ヨハネ 8:12）

天国への道を旅行する者は、安全な案内者が必要である。人間の知恵に頼って歩いてはならない。人生の旅を続けるとき、キリストが言われたみ声を聞くことは、わたしたちの特権であり、主の言葉はいつも知恵の言葉である。……

サタンは勤勉に人の魂を滅ぼすために精一杯働いている。彼は大きな力を持って降りてきた。彼は自分の時が短いを知っている。わたしたちの唯一の安全は、キリストに近く従い、このお方の知恵の中に歩き、その真理を実行することにある。わたしたちはサタンの働きに対して、いつもそれを見破ることができない。彼のわながどこに仕掛けてあるかを知らない。しかしイエスは敵の巧妙な工作を知っておられ、わたしたちの足を安全に守ることがおできになる。……「わたしは道であり、真理であり、命である」とイエスは宣言される（ヨハネ 14:6）。（手紙 204、1907 年）

栄光に至る確かなまっすぐな道に、もし真理の光が輝いていなければ何の役に立つだろうか。地上から天国への巡礼者がその旅行の途中、命を持っていないとするならば、その道を照らしている真理の光は何の役に立つだろうか。「わたしは道であり、真理であり、命である。」とのみ言葉と共に、すべての指導者であるイエスを信じる者は、天国に至る歩みを確実に続け、道である言葉に従って歩まねばならない。（手紙 290、1906 年）

キリストはその品性と働きにおいて、あらゆる真理の中心であり、すべてであられた。主は教理の宝石を結ぶ鎖であり、主にあつて真理の完全な体系が見出されるのである。（手紙 63、1893 年）

服従のうちに歩む者は、真理が何であるかを知るであろう。……真理を知るためにわたしたちは喜んで従わねばならない。世を愛する者は、キリストのご計画のために自分の計画をあきらめようとしない。彼らはどこに行くかもわからず暗闇を歩いている。

尊い真理の光はそれを求める者の道を照らしている。（原稿 31、1886 年）

天の王の子ら

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったとか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」(ヨハネ第一 3:1)

だれも自分が神の子となることによって、下に降りているかのように感じてはならない。神のみ子だけが下に降りてきて下さったのである。……主はその輝きと尊厳と高い地位を捨てて神性の上に人性をまとい、それによって人性に触れ、神性を留保し、この地上に来られてわたしたちのために十字架の死の苦しみを受けられた。……

キリストは、無限の犠牲を払われた。このお方はご自身の命をわたしたちに下さった。このお方はその聖なる魂の上に神の律法に対する不法の結果を負われた。王なる冠をぬいでこの地上に降りて来られ、1歩1歩墮落した人類の水準にまで降りて下さった。このお方はカルバリーの十字架にかけられ、わたしたちのために死に、それによってわたしたちは永遠の命を得た。……わたしたちを神の子と呼ばれるために、これらすべてを耐えられたことは、小さいことに思われるだろうか。王家の1員、すなわち天の王の子となり、不死の嗣業にあずかる者となることは、あなたにとって小さいことであろうか。(世界総会冊子1901年4月23日)

神の無限のいつくしみ深さにより、イエス・キリストの功績を通して神がわたしたちの命を助けるばかりでなく、わたしたちを許して義とし、そしてキリストの義を通してわたしたちに義を与え、わたしたちを養子縁組によって子とすることによって、わたしたちを高め、高尚にしてくださったのである。わたしたちは王の家族、天の王の子らとなる。神は男女を墮落した状態から引き上げ、義のうちに高めてくださる。……神は彼らを宝石、あるいは神のための特別な宝とお呼びになる。彼らは神の恵みと力と偉大さと富と栄光の勝利のしるしである。だから彼らは自分自身のものでなく代価を払って買い取られたものであり、キリストの特別な贖いの働きによって、キリストと最も近い最も崇高な関係にされたものである。彼らは神の世継ぎ、子ら、キリストのからだの1部、キリストの肉、またその骨と呼ばれる。実に彼らは神と親密な関係を持つてつながっているのである。(手紙8、1873年)

1月12日

だれでもわたしを愛する者は

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

わたしたちは個人的に、自分たちに対するイエスの愛とこのお方の使命とその働きを瞑想すべきである。また、このお方の働きと使命を個人的なものとして考えねばならない。イエスはわたしを救うため、ご自分の命を与えてくださるほどにわたしを愛して下さったと言わなければならない。み父は、わたしを愛しておられる、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。わたしたちはどのような条件に基づいてキリストが永遠の命の賜物を約束してくださったのかを確かめるようになる。わたしは、それはわたしたちの信仰に基づいてである、とお答える。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 4 月 24 日)

神の最愛のみ子という賜物が、神の約束をわたしたちのものとして保証したのである。(原稿 23、1899 年)

どのくらい多くの人が「主はわたしを救って下さる」と言えるだろうか。わたしは主がわたしの救いを望んでおられることを知っている。主の御目から見て、わたしたちは価値あるものである。わたしの思想、言葉、働きはすべて主の前で調べられることをわたしは知っている。キリストの血による贖いに関したすべてのことは神の御目から見て価値あるものである。わたしたちの贖いのために払われた価のため、わたしたちは愛情をすべてキリストにささげるべき義務の下にある。わたしたちにあるものをすべて神に差し出さねばならない。そしてわたしたちのすべてを神にお捧げするとき、大きな損失を被っていると考えてよいだろうか。否、わたしたちのタラントを神にささげるとき、それは 2 倍になるのである。わたしたちに与えられているあらゆる賜物が神に返されるとき、神の働きの影響力を増加するため、神の祝福が返って来る。あなたは自分がどこにいても、キリストに属するものであることを覚えてほしい。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 9 日)

この世に対するキリストの賜物は計算を越えたものであり、何ものにも比較できない天の最高の宝の、価値ある賜物を与えて下さった神と力を競うことができる者はいない。この偉大さのゆえに、人はいつまでも、永遠に続く感謝と讃美の主題を持ちつづける。キリストを通して、ご自分のすべてを人間にお与えになった神は、わたしたちの心と魂と力との所有権を宣言しておられる。キリストの完全な賜物の中に備えられた神の宝を仰ぎ見よう。そのとき、「ここに愛がある」と叫ぶことができるのである。(ユース・インストラクター 1894 年 12 月 13 日)

豊かな恵みの流れ

「神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のある方なのである。」(第二コリント 9:8)

神より豊かな恵みの流れを受け、神と調和して働けることはすばらしいことではないだろうか。神は、貧しく弱いわたしたちに何を望んでおられるだろうか。わたしたちと共に神は何をなし得るか。すべてを神に引き渡すならば、何ごとでもなし得る。神はすべての青年を愛して下さる。彼はあなたのすべての困難を知っておられる。人間の心を支配しようとする悪の勢力に向かって、あなたが戦わねばならないことも知っておられる。(原稿 8、1899 年)

ご自分の子らに対する神のご目的は、彼らがキリストにあって完全な男女として成長することである。そのためにわたしたちは心と魂と体のあらゆる力を正しく用いねばならない。わたしたちは、知力や体力を浪費してはならない。……

サタンは悪の軍勢を招集して聖徒と戦おうとしている。わたしたちには彼の攻撃に無関心ではいられない。彼は多くの方法を通してやって来る。わたしたちはサタンがわたしたちの思いをわがものにしようとするとき、それを識別できるようにはっきりした霊的識別力を必要としている。神は真理が輝いている人々に、神の軍隊に自分たちの立場を取るようと召しておられる。神はご自分が与えられた光の中を歩むことによって、その忠誠を示すように命じておられる。(原稿 50、1904)

主は、あなたがいと高き者の息子、娘という地位を持っていることと天の王の子らであることを理解するようにと望んでおられる。神と密接な関係を持って生きるようにと希望しておられる。……すべての不まじめなものを捨てなさい。どうしてもあれこれ楽しみにふけりたいと考えてはならない。主の側に自分を置くことを決心しなさい。……

主の力の御腕に堅くすがりなさい。……習慣に馬具をつけなさい。くつわと手綱をつけなさい。そして「主を愛します。わたしのすべての知力を主の働きのために用いることを決心します」と言いなさい。……

もし、あなたがインマヌエルの血染めの旗の下に立ち、主のご奉仕を忠実にするならば、あなたは決して試みに負けることがない。あなたを守ってつまずかない者としてくださるお方があなたのそばに立って下さるからである。(原稿 8、1899 年)

1月14日

見て生きよ

「そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:14、15)

キリストが荒野でイスラエルの子らに与えるようにとモーセに命じられたその同じ教訓が、罪の災いのしみの下で苦しむすべての魂のために与えられている。厚い雲の中からキリストはモーセに青銅のへびをつくってさおの上に掛け、火のへびにかまれた人がそれを見て生きるように告げよと言われた。もしキリストが見上げるようにお命じになったときに、「ただ見るだけで何か良い結果が見られるなどと信じられない。わたしは毒蛇にかまれて非常に苦しんでいるのだ」と言ったらどうであろう。服従が達成すべき目的であった。理由を問わず物事の理屈を聞くことをせず、見ることに頼らない絶対的な服従である。キリストのみ言葉は、「見て、生きよ」だったのである。……

わたしたちは、キリストがわたしたちにとって何であるかをはっきり知りたと思う。わたしたちのために得られた勝利をはっきりと見たいと思う。キリストはもろもろの支配と権威をくじき、彼らをあからさまにさらしものとされた。彼は墓の束縛を破り、ご自分がわたしたちのために捨てられた命を再び取り上げるために出てこられた。彼は高いところに上られたとき、とりこを捕えて引き行き、人々のために賜物をお受けになった。彼はこのすべての苦しみをわたしたちのために忍ばれた。……彼はわたしたちの助け手となり、必要なときの避け所となられた。彼はわたしたちのクリスチャン経験の中に充分な現在の救い主として現されるべきである。

ただ、見て生きなさい。わたしたちが疑いの穴倉から出て、望みと信仰の屋上に行かないならば、それは神のみ名を汚すこととなる。み光が輝きわたるとき、信仰の力強い手をもってイエスにしっかりとすがろう。これ以上あなたの疑いを大きくしたり、他の人の心にそれを注いだりして疑いの種をまきサタンの手下になってはならない。信仰を語り、信仰に生き、神への愛を育てなさい。イエスがあなたにとってどのようなお方であるかをあますことなく世に証言しなさい。彼の聖なるみ名をあがめなさい。彼の善と彼のあわれみと彼の力を語りなさい。(原稿 42、1890 年)

より高い標準

「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10:10)

「わたしは世の光である」(ヨハネ 8:12)。「わたしが命のパンである」(ヨハネ 6:35)。「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14:6)。「わたしはよい羊飼いであ」る(ヨハネ 10:14)。何という完全さが表現されていることであろう。「わたしが来たのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」(ヨハネ 10:10)。わたしたちはこの命をもっと豊かに持たねばならない。自己に死にキリストに生きた魂に、神はこの命を吹き込まれる。しかし、完全な自己否定が要求される。これがなされない限り、わたしたちは自分の幸福を破壊する悪を持ち歩いていることになる。しかし自我が十字架につけられるとき、キリストがわたしたちのうちに生きられ、そして聖霊の力がわたしたちの努力に伴うのである。

わたしは、わたしたちが神の望んでおられるようなもの一主のうちにあって満ちあふれる光一になれると願う。わたしたちは高い標準に到達する必要がある。しかし、自己を祭壇にささげるまでは、また聖霊によって支配していただき、神のみ姿に従ってわたしたちがかたどられ、形づくられるまでは、決してこれをなしないのである。……

わたしたちは神への奉仕のために日ごとに自己をささげねばならない。信仰をもって神のもとに行く必要がある。……わたしたちは、神の前に謙遜になる必要がある。まず最初に自己を処理しなければならない。心を厳密に吟味し神の霊を自由に受けることを妨げるものを探り出そう。わたしたちは聖霊を受けねばならない。そのときわたしたちは、神と共に勝利する力を得るであろう。

真理に対する同意だけでは充分ではない。日ごとにわたしたちは真理を実践しなければならない。わたしたちは神とだけ共にいて他は遮断し、すべてをこのお方に明け渡さなければならない。み言葉の大いなる全体的な真理に耳を傾けるだけでは充分ではない。わたしたちは自分に、信仰によってわたしの心にキリストが住んでおられるかどうか問わねばならない。彼のみがわたしたちの必要を指摘し、真理の尊厳と栄光を示し得る。魂が神と会うべき場所である自己犠牲の祭壇で、わたしたちは心を探り、キリストの内住の必要をあらわす天国のたいまつを神のみ手から受けるのである。(原稿 9、1899 年)

1月16日

主にあって強くあれ

「主はわたしの光、わたしの救いだ、わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。……たとい軍勢が陣営を張って、わたしを攻めても、わたしの心は恐れない。たといいきさが起こって、わたしを攻めても、なおわたしは自ら頼むところがある。」(詩篇 27:1、3)

わたしたちは敵地を通過中である。敵は道の両側にいてわたしたちの前進を妨害している。彼らは神を憎み、神に従いそのみ名をかかげる者を憎む。しかしわたしたちの敵となることは主の敵となることである。例え彼らが強く巧妙であっても、なおわたしたちを導く救いの将は彼らを征服できるお方である。太陽がその道から雲を追散らすように、義の太陽はわたしたちの前進を妨げる障害物を取り除いて下さる。旅路において、目には見えないが、わたしたちを元気づけ、活気づける方を眺めることによって、自分たちの魂を元気づけることができる。

……

もしわたしたちが生きた信仰をもって主にすがり、ヤコブと同じ様に、「あなたを去らせません」と言い(創世記 32:26)、「わたしをみ前から捨てないで下さい。あなたの聖なる霊をわたしから取らないで下さい」と懇願するなら(詩篇 51:11)、「わたしは決してあなたから離れたり、あなたを捨てたりしない」という約束はわたしたちのものである。……

わたしたちは、父親の写真をいつも心臓の近くに持ち歩いていたある高貴な王子の話を聞いたことがある。彼は、大事なときにわれを失う危険があると、その写真を取り出してながめ、「こんなに立派なお父さんに不都合いなることを何1つわたしがしませんように」と言った。クリスチャンとして、神はわたしたちに、1瞬間たりとも決してご自分を見失ってはならないと要求しておられる。そうであれば、養子によって神の子となったわたしたちは、神のみかたちを保有し、聖い召しを軽んじたり、価値を下げたりしないように、どんなにか注意深く気をつけるべきであろうか。なぜなら、わたしたちは王族の1員なのである。神はわたしたちを名誉の器としてあらゆるよい働きのため準備しておられる。「この民は、わが誉れを述べさせるために、わたしが自分のために造ったものである」(イザヤ 43:21)。神の民は冠、すなわち王冠と呼ばれている。サタンは主の宝を熱心につかもうとしているが、神はそれを安全に確保しておられるので、サタンはそれを手に入れることができない。「また、あなたは主の手にある美しい冠となり、あなたの神の手にある王の冠となる」(イザヤ 62:3)。わたしたちは迷わず神に信頼するとき、安全に、全く安全に敵の狡猾な手から守られるのである。(手紙 8、1873 年)

守護の天使

「これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道であな
たを守らせられるからである。」(詩篇 91:11)

ああ、これによって天が地に近いことをわたしたちが悟ることができればよい
のだが。地上の子らがそれを知らなくても、彼らのまわりの天使がいる。天の使
者は救いの世継ぎたるべきものに仕えるために送られている。無言の証人は、キ
リストに近づき、勝利しようと努めるすべての魂を守っている。天使は試みられ
る者が、もしゆるされるならば魂を破壊しようとする敵の餌食になるのを、決して
見過ごしにはしない。望みがある限り、永遠の滅びに至るほど聖霊に抵抗するま
では、人間は天使たちによって守られている。(原稿 32a, 1894 年)

ああ、すべての者が、わたしたちの尊い救い主をありのまま、すなわち救い主
として眺めることができればよいのだが。わたしたちの目から神の栄光を隠してい
る幕を、主のみ手によって取っていただこう。それによって高く聖なる所におられ
る主が示される。わたしたちは、そこで何を見るだろうか。それは沈黙と不活動
の場におられる救い主ではない。彼は、天の住民たちと、ケルビムやセラピムや
千々万々の天使たちに囲まれておられる。これらの天の存在者たちには、他のす
べてにまさる 1 つの対象があり、それに非常な関心を持っている。その対象とは、
墮落した世にある神の教会である。彼らはキリストのために、このお方の命令の
下で、主を見上げ信じるすべての人を最大限にまで救うために働いている。(SDA
バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 967, 968)

天使は、キリストの牧場の羊を守るように任命されている。サタンがその惑わ
しのわなをもって可能であれば選民をも欺こうとするとき、天使は感化力を働か
せる。もし試みられる魂が主のみ言葉に注意を払い、自分たちの危険を自覚して、
「わたしはサタンの策略にのらない。わたしには天のみ座に長兄がおられる。この
お方は、わたしにやさしい愛を持っておられることを示してこられた。そして、わ
たしは主の愛の心を悲しませることはしない」と言うならば、この感化力は彼らを
救うのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 922)

このような反対勢力のただ中に生きながら、わたしたちは信仰と祈りを働か
せることによって、天使たちをかたわらに呼び、付き添ってもらうことができる。
彼らはわたしたちをすべての悪い影響から守ってくれるのである。(手紙 258、
1907 年)

1月18日

従う者への約束

「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に従いわたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。」(出エジプト 19:5)

この約束はイスラエルばかりでなく、神のみ言葉に従うすべての人に与えられた。終末時代の危機の中に生きる人々は、自分たちの経験のごく初めに、真理が自分たちを救い主に結びつけたことを悟ることができる。そして信仰の導き手であり、完成者である救い主が、始められた働きを完成して下さるであろう。わたしたちは神の子と交わるように召された。神は忠実な方である。人々が神の始められた働きにおいてこのお方と協力するとき、彼らは力から力に前進するであろう。彼らが単純な信仰を働かせて、神はキリストにあつて彼らを立たせて下さるという信仰を毎日持ちつづけるとき、神は昔のイスラエル人に言われたのと同じように、「あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた」(申命記 7:6)と言われる。

このように神は、導かれるべき者を導くことができ、また喜んでそうされるのである。神は一人一人に絶えざる信頼と、揺るがない信仰と疑わない服従の教訓を教えたいと望んでおられる。彼は一人一人に、わたしはあなたの神、主である。わたしと共に歩きなさい。あなたの道を光でいっぱいにしてあげよう、と言われる。

しかし、彼はすべての者に神の律法に対する服従を要求しておられる。人が幸福になり得る唯一の道は、神の王国の律法に対する服従にある。

命は、その特権や生まれつきの才能ともども、神の賜物である。わたしたちの持っているものはすべて神から来たものであり、あますことなく、喜んで神にささげるべきものであることを覚えよう。パウロは、「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、……キリストのうちに自分を見出すようになるためである」(ピリピ 3:8, 9)と宣言している。わたしたちの考えと意志を、神にあつてキリストと一つとなるために犠牲にしなければならない。わたしたちの持っているもの全部とわたしたち自身を、キリストの足元に置かねばならない。(原稿 17、1899 年)

唯一の安全

「人を恐れると、わなに陥る。主に信頼する者は安らかである。」(箴言 29:25)。

神に信頼しているときのみ安全である。わたしたちには、眠らずにねらっている敵がいる。……キリストは人間が自分の力で強力な敵に勝利することが、不可能であることを認め、そのために、天のみ座からおりて人間となり、人間のためにアダムが失敗したテストに耐えるため、それをお受けになった。……キリストは、サタンに勝利し、人間が自分の力でキリストの名によって勝利することを可能にされた。しかし、勝利はキリストの名によって、ただ彼の恵みを通してのみ得られるものである。試みによって重く押しつぶされそうになるとき、生まれながらの心の感情と欲望が勝利を求めて争うとき、熱心で熱烈な切なる祈りをキリストのみ名によってささげるならば、キリストはあなたの側に助け手として来られ、主の名を通して勝利を得、サタンは打ち破られるであろう。……

わたしはあなたに神に全く信頼するように願う。「悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう」(ヤコブ 4:7, 8)。クリスチャンの生活は、戦いと自己否定と征服の生活である。それは、戦争と進軍の連続である。キリストに対する服従のすべての行為、獲得したすべての勝利は、栄光と最後の勝利に至る進軍の1歩である。キリストをあなたの導き手としなさい。このお方はあなたを安全に導かれる。その道はゴツゴツしており、とげがあり、急な上り坂で骨の折れる道かもしれない。あなたが疲れ、休みが欲しいときも前進しなければならないかもしれない。そして弱り果ててもなお戦わねばならず、落胆しても希望を持ち続けなければならないかもしれない。しかし、キリストをあなたの導き手とするならば、永遠の命の道を失うことはない。あなたの案内者の側にいるならば、最高の場所に到達しそこなうことはない。その案内者はあなたの前に、あなたが歩むゴツゴツした道を踏みしめて行かれる。もしあなたが誇りと自分の野心に従うならば、初めは楽しくてもその終わりは、痛みと悲しみであることを見出すであろう。あなたは、多くのことを約束はするが、あなたの人生を毒し、苦いものとすることになる利己心に従うこともできる。キリストに従うことは安全である。あなたは髪の毛1すじほども、そこなう暗黒の力に苦しむことがないであろう。あなたの贖い主に信頼しなさい。そうすれば安全である。(手紙1b、1873年)

1月20日

光か影か

「わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。」（イザヤ 5:20）

神は光であって、神には少しの暗いところもない。もし、光がなければ影もない。影は太陽によってもたらされるが、太陽がそれを創造するのではない。影ができるためには、何かさえぎるものが必要である。そのように暗黒は神から来るものではなく、魂と神の間を妨げる障害物の結果である。……神が与えて下さる光を無視するならば、必ずその結果が来る。それによって影がつくられ、光が去るために暗黒はもっとひどくなる。……もし人が光と証拠から身を引き、サタンのそのそのかしに屈服するならば、彼は自らのまわりに疑いの幕をはりめぐらして、光を闇から見分けることができなくなる。光と証拠があればあるほど、彼はただ誤解するばかりであろう。光が大きければ大きいほど、ますます無関心になるのである。このようにして、だまされた魂は、暗黒を光と呼び、真理を誤謬と呼ぶようになる。（原稿 56、1898 年）

サタンは、人間が光を拒むように絶えず働きかけている。これはまっすぐな道から横道へそれるほんの 1 歩にすぎない。サタンは、光がすっかり暗黒となり、暗黒が光となるその道へと導こうとする。……不信に対して心を開くことは危険である。不信は、心から神の御霊を追い出し、サタンの提案を受け入れる。……わたしたちは、……疑いと不信の第 1 歩の侵入を避けねばならない。（手紙 104、1894 年）

「間違っではいけない、神はあなどられるような方ではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」（ガラテヤ 6:7）。神はだれをも滅ぼされない。滅ぼされる者は、自ら滅ぼしているのである。人が良心の忠告をもみ消すとき、彼は不信の種をまいており、その収穫は必ず刈り取らねばならない。……

「わたしの勧めに従わず、すべての戒めを軽んじたゆえ、自分の行いの実を食らい、自分の計りごとに飽きる。思慮のない者の不従順はおのれを殺し、愚かな者の安楽はおのれを滅ぼす。しかし、わたしに聞き従うものは安らかに住まい、災に会う恐れもなく、安全である。」（箴言 1:30 - 33）（原稿 56、1898 年）

望みなき者への希望

「悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。」(イザヤ 55:7, 8)

自分の間違いや罪があまりにも嘆かわしいものであったために、主はあなたの祈りを聞かれず、祝福されることも救われることもないと、あなたは考えている。……イエスに近づけば近づくほど、あなたの目に自分の欠陥がもっとよくうつるであろう。なぜなら、あなたの視力がますます澄んで、主の完全な性質とはかけ離れてきわだった相違をなしているあなたの不完全さを認めるようになるからである。しかし失望してはならない、これは、サタンの惑わしが効力を失った証拠であって、命を与える神の霊の感化力があなたを目覚めさせ、あなたの無関心と冷淡が去っている証拠である。

自分自身の罪深さを認めず自覚しない心のうちには、イエスに対する深く根ざした愛は、やどることができない。恵みによって変えられた魂は、聖なる神の品性を賞賛するが、もしわたしたちが自分の霊的欠陥を悟らないならば、それはキリストの麗しさと尊さを見ていないという確かな証拠である。自分を尊敬することが少ないほど、救い主の無限の純潔と愛を尊敬するようになる。自分自身の罪深さを見ると、わたしたちは許すことのおできになる方へと駆り立てられる。……

神は有限な人間が、お互いに取り扱うようにはわたしたちになさらない。彼の思想はあわれみの思いであり、愛とやさしい同情の考えである。「主は豊かにゆるしを与えられる」「わたしは、あなたの罪を消し去った」と主は言われる。……

上を見なさい。試みられ、誘惑され、失望している者は上を見なさい。……上を見ればいつも安全であり、下を見ることは悲惨である。もし、あなたが下を見るならば、地はあなたの足元でぐらぐらと動揺するであろう。確かなものは何もない。しかし、高い天には静けさと落ち着きがあり、すべて上に登る者のために神の助けがある。無限のお方のみ手はのばされて、その強い力をもってあなたを抱擁しようとしている。もし彼らが信仰によってこのお方を見上げるならば、力強い助け主は、最も誤っている者、罪深い者を祝福し、引き上げ、勇気を与えるために近くにおられる。しかし、罪人は上を見なければならぬ。(ビュー・アンド・ハルド 1885年2月17日)

1月22日

決して神のみ思いから 忘れられることはない

「神はあなたがたを顧みていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(ペテロ第一 5:7)

神の善をもっと広く見るため、キリストは神のみ手のわざを見るように告げておられる。「空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか」(マタイ 6:26) と主は言われる。……

男も女も嘆かわしいほどの罪を犯してきたが、見捨てられたわけではない。世界を支えるみ手は、最も弱い子らを支え力づけられる。どの人間の技術よりもはるかにすぐれた技術をもち、野のゆりに繊細で美しい色をお与えになる偉大な芸術家は、小さなすずめの世話をなさる。1羽のすずめでも主に気づかれずに落ちることはない。……

もし、ソロモンの栄華にまさる美が花に与えられたのであれば、神が自ら贖われた世継ぎには、どのようなすばらしいものが与えられるであろう。キリストは、1日のうちに枯れてしまうものの上にも、神の注意が注がれていることを指摘して、ご自分のかたちに創造された者の上に注がれている神の大いなる愛をわたしたちに示された。……主はわたしたちの前に命の書を示し、その中に書かれている名前を見るように命じておられる。この書の中に、すべての人間は自分のページを持っていて、その人の生涯の歴史のことがらが記されている。神のみ思いから、一瞬たりともこれらの名前が忘れられることはない。神が造られたものに対す愛と配慮は、すばらしいものである。……

滅びつつある人類の魂を救うことができるようにと、このお方はあまりにも甚大な賜物をお与えになったため、神は人類のためにもっと大きな賜物を与え、もっと大きな贈与を賜ることができたはずだとは決して言うことができない。このお方の賜物は、計算できないほどのものである。これらすべてのことをされたのは、人間が神の愛と慈悲でいっぱいになり満たされるためであった。こうしてこのお方は、罪人に、もし違反者がゆるしを求め、神の恵みによって変えられ、神に似たものへと造り変えられるために、自分自身、すなわち体と魂と霊を神に明け渡すならば、最大規模の罪をも許していただくことができることを確信させたいと望まれた。

人のために神は全天の宝を注ぎ出された。そして、今度はわたしたちの愛情をことごとく期待し、要求しておられる。(手紙 79、1900 年)

キリストのように

「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたの命は、キリストと共に神のうちに隠されているのである。」(コロサイ 3:3)

イエスは、あなたが幸福になるように望んでおられるが、自分の心の衝動に従って自分の道を歩くならば、決して幸福になることはできない。……わたしたちの考えや特徴は、全く人間的であり、それに同調したり、ふけったりしてはならない。自我はときどきではなく、毎日十字架につけられねばならない。そして、肉体的、精神的、また霊的なものは、神のみ旨の下に従わせなければならない。神の栄光とクリスチャン品性の完全がわたしたちの人生の目的となり、目標とならなければならない。キリストに従う人々は、気質においてキリストを模倣しなければならない。……キリストのように、というのが合言葉である。あなたの父親や母親のようにではなく、イエス・キリストのように一キリストのうちに隠され、キリストの義をまとい、キリストの霊を吹き込まれるように、である。わたしたちが先天的に受け継いだり、あるいは放縦によって得たり、あるいは間違った教育によって受けた特徴は、徹底的に克服し、断固として抵抗しなければならない。名声への愛着や意見の誇りなどは、すべて犠牲にしなければならない。……

イエスは、わたしたちの助け主であり、わたしたちはこのお方のうちに、そしてこのお方を通して勝利しなければならない。……キリストの恵みはあなたの要求を待っている。あなたが主にその恵みを求めるならば、彼は恵みと力を与えてくださる。……キリストの宗教は、すべての汚れた感情を押さえ、力を与え、自己訓練と勤勉に導き、家事においても、日ごとの生活においても、経済と気転と自己否定と、欠乏にあってもつぶやかずに忍耐することを教える。わたしたちの心にあるキリストの霊は、品性のうちにあらわされ、高貴な特質と力を発達させるであろう。「わたしの恵みはあなたに対して十分である」とキリストは言われる(第二コリント 12:9)。(手紙 25、1882 年)

神は非常に大いなる事をなしてくださったので、わたしたちはキリストによって自由を得、誤った習慣と悪い傾向という奴隷から解放された。愛する若い友よ、キリストによって自由になろうと奮闘しないのであろうか。あなたがたはあれこれと自称クリスチャンを指しては、自分たちは彼らを信用していない、もし彼らの生活がキリスト教の模範であるならば、わたしたちは少しもクリスチャンになりたいとは思わない、と言っている。あなたがたのまわりにいる人々を見てはならない。その代りに唯一の完全な模範、人間としてのキリスト・イエスを見なさい。彼を見るときにあなたがたは、同じ姿に変えられるのである。(ユース・インストラクター 1902 年 8 月 21 日)

1月24日

イエスの近くにいなさい

「けれどもわたしは常にあなたと共にあり、あなたはわたしの右の手を保たれる。あなたはさとしをもってわたしを導き、その後わたしを受けて栄光にあずからせられる。」(詩篇 73:23、24)

あなたが何か重要な働きにつく前に、イエスがあなたの勧告者であり、あなたの思いわずらいをいっさいイエスにゆだねることがあなたの特権であることを覚えなさい。……イエスを背後におしとどめたり、彼のみ名を全然出さなかったり、あなたの勧告者であるイエスに対して友人の注意を向けさせなかったりしてはならない。もしあなたの友人がそばにいるのに、彼らに話かけもせず、また彼らについて話もしなかったとしたら、彼らはあなたを失礼な人だとは思わないであろうか。……

多くの者は、イエスがはるかかなたにおられると考えてつぶやく。だれがイエスを遠くに追いやっているのだろうか。あなたとイエスを離しているのは、あなた自身の行動ではないだろうか。イエスは、あなたを見捨てられない。しかし、あなたはこのお方を捨てて、他のものを愛している。……あなたが主のそばからさまよい出て、誘惑者の声に魅了され、取るに足りないものにあなたの愛情をそそぐとき、あなたは神への平和と信頼と確信を失う危機に瀕している。……そのとき、サタンはあなたに、イエスはあなたを捨てられたという思いを抱かせる。しかし、あなたがイエスを捨てたのではないだろうか。……わたしたちは、あえて主のみ名を唇から遠ざけてはならない。また、主の愛と思い出がわたしたちの心の中で死んではならない。

冷たい形式主義的な信仰告白者は、「これでは、キリストをあまりにも人間のようにしてしまう」と言う。しかし神の言葉はわたしたちにこの考えが正しいことを保証している。実際的な、はっきりしたキリストに対する観念が不足している。それによって多くの者は、救い主イエス・キリストの知識にある真の経験に入ることが妨げられている。これが多くの者が恐れ、疑い悲しんでいる理由である。彼らのキリストと、救いの計画に対する考えは、ぼんやりした面白くない混乱したものである。もし、彼らがダビデのように主をいつも目の前に置いているならば……彼らの足は堅い岩の上にあるはずである。あなたのために十字架にかけられたイエスを見なさい。あなたの罪に深く悲しんでおられるお方を見なさい。そして、あなたが祈り、悔い改め、罪をゆるして下さる贖い主としてこのお方を見ようと真剣に願うとき、いつでもあなたを祝福し、あなたがご自分を認めるのを聞こうと待っておられるのを見なさい。主のそば近くにいなさい。(ユース・インストラクター 1894年7月19日)

道の光、聖書

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」(詩篇 119:105)

「最もすばらしい本、主の輝くろうそく、
とこしえの星、唯一の光、
この光によって人生の海を船は航海することができ、
最もすばらしい、安全な岸に到達することができる」

なぜこの本—この尊い宝は、価値ある友のように尊重され、高められていないのだろうか。これは人生の荒海を通過するための海図である。これは、永遠の住居への道と、天国の住民が持たねばならない品性とを示してくれる案内書である。聖書を熟読し研究することはほど知能を啓発し、強めるものは他にない。ここで知性は最も高められた品性の主題を見出し、その力を発揮するであろう。揭示されたすばらしい真理と接触するために、わたしたちの全精力を傾けることはほど能力を必要とすることはない。これらの偉大なる思想を把握し、認識するための努力は頭脳を発達させる。わたしたちは、真理の鉱脈を深く掘り下げ、魂を豊かにさせる尊い宝を集めることができる。ここにおいて、生きるための真の道と死ぬための安全な道を学ぶことができるのである。

聖書をよく知ることは、識別力を鋭くし、サタンの攻撃に対して魂を強くする。聖書は御霊の剣であって敵を追い払うことに失敗することはない。信仰と実践のあらゆる事柄において聖書こそ唯一の案内者である。サタンが人々の心と意思を大いに支配している理由は、人間が神のみ言葉を勧告とせず、彼らの道を真の試金石によって吟味しないためである。聖書は栄光の世継ぎとなるために、わたしたちが邁進しなければならない道を示している。(レビュー・アソッド・ヘルド 1881年1月4日)

み言葉に対して心を開くとき、神のみ座からの光は魂の中を照らす。心に大切に宿されたみ言葉は、学ぶ者に貴重な知識の宝を与えるであろう。この尊い原則は、品性に正直と真実と節制と純潔を刻みつけるであろう。(ユース・インストラクター 1907年12月31日)

1月26日

心の中に真理を

「わたしは真実の道を選び、あなたのおきてをわたしの前に置きました。」(詩篇 119:30)

神のみ事業には、揺るぐことなく真理の土台に堅く立ち、真理の旗をしっかりと高く掲げ、それによってだれでも彼らがどちらの側に立っているのかをはっきりと認めることのできる男女が必要とされている。彼らの心は清く、純潔で虚飾と欺きから離れていなければならない。(手紙 44、1903 年)

真理が心に住む場所を見出すべきである。そして真理は聖霊の力を通して、あなたのすべての行動と言葉に対して影響を与えるであろう。わたしたちは、真理を視野の外に追い出そうとしていないだろうか。決してそんなことがあってはならない。真理は神聖に扱われるべきである。あなたはすべての取引を真理の原則に照らすべきである。真理はあなたの困難時の勧告者、人生のあらゆる関係における案内者、必要な時のいと近き助け手でなければならない。公私の生活において、人間の目が見えない所でも、神の耳以外の耳が開いていない所でも、真理はわたしたちを支配し、わたしたちの思想を導き、わたしたちの言葉と行為を教えるべきである。(手紙 5 b、1891 年)

あなたは自分の告白している真理が、品性を清め、高め、勤勉と質素に導き、その 1 方では貪欲と欺きとあらゆる種類の不正直を避けることを、世に示すことができる。あなたの言葉に、忍耐と寛容を示すならば、あなたは毎日真理の力について説教をし、神のみ事業のために力強く奉仕していることになるのである。だれからもあなたの告白している真理が、少しもあなたを世と違ったものにはしていないと言われてはならない。……あなたの信仰についてあなたが真理によって清められていないとだれにも悪く言われる機会を与えてはならない。(手紙 30、1878 年)

イエスのうちにあるとおりの真理が、わたしたちの品性を形成するならば、それが本当に真理であることが認められるようになる。真理が真の信者によって瞑想されるならば、それは輝き、本来の美しさに光るであろう。わたしたちがそれを見るならば、真理はますますその価値を増し、その本来の美しさと魂を生きかえらせ、活力を与えることができ、わたしたちの自我とキリストに似ていない性格の荒々しさを征服するであろう。真理はわたしたちの抱負を高め、聖なる完全な標準に到達できるようにしてくれる。(原稿 130、1897 年)

真理を喜ぶ

「主よ、あなたの道をわたしに教えて下さい。わたしはあなたの真理に歩みます。心を1つにしてみ名を恐れさせて下さい。」(詩篇 86:11)

「わたしはあなたの真理に歩みます」と心の底から言いなさい。神を恐れつつなされたすべての決心は、信仰と目的に力を与える。それは活力を与え、謙遜にし、力を与え、確信を与える。「わたしはあなたの真理に歩みます。」世界に偽りが満ちているので、真理はわたしたちの確信に価値するものである。誤謬と模造が流布している。これが唯一の、どこかに真理がある、本当の真理があるという事実の証明である。……

真理を聞くだけでは充分でない。神は服従を要求しておられる。「恵まれているのは、むしろ、神の言葉を聞いてそれを守る人たちである」(ルカ 11:28)。「もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたは幸いである」(ヨハネ 13:17)。

わたしたちは、真理の喜びのうちに歩むことができる。真理は、わたしたちにとって奴隷のくびきとなる必要はなく、かえって、慰めとなり、わたしたちにとって大いなる喜びのよきおとずれのメッセージとなって、わたしたちの心を活気づけ、心の中に神に対する讃美を起させるのである。忍耐と聖書の慰めを通して、わたしたちは望みを持つ。クリスチャンの望みは、憂鬱な慰めのものではない。それはわたしたちを、疑いと恐れの手錠に閉じこめてしまうものではない。真理は、真理を愛し、真理によって清められた者を自由にする。彼らは、神の子の栄光ある自由の中を歩くのである。(手紙 8, 1873 年)

真理を信じると告白する者は、その言葉と品性にその実を現わさねばならない。わたしたちは日常生活において天の日光を輝かすために、イエス・キリストの知識においても、またこのお方の神への愛と隣人への愛を受けることにおいても、はるかに進んだ者となるべきである。真理が、魂の最も奥深い底にまで到達し、キリストの精神に合わないものをすべて清め去らなければならない。そしてその空間が、純潔で聖く汚れのないキリストの品性の特徴によってうめられなければならない。それによって、心の泉はことごとく花のように、かぐわしく、こちよい香り、すなわち命から命に至る香りのするものとなるのである。(原稿 109, 1897 年)

人を神の人とするものは、魂に宿る真理である。(原稿 1 a, 1890 年)

1月28日

尊い宝の真理

「真理を買え、これを売ってはならない。知恵と教訓と悟りをも買え。」(箴言 23:23)

真理は尊い。真理は生活と品性に重要な変化をもたらし、言葉と態度と思想と経験に、大いなる影響を及ぼす。(手紙 14、1885 年)

イエス・キリストの宗教は、それを受ける者を決して墮落させることはない。もし、世的で平凡で粗野で言葉に不親切で、話し方が荒々しく、利己的で自分を大切にする男女がいるなら、心に受け入れられた真理は、彼らを清め、洗練する働きを始めるであろう。言葉と服装と習慣において、改革が見られ、神を喜ばせようとするのがなされるであろう。そのとき、全世界は、真理の影響力をその改変の働きの中に認めるであろう。

真理は、趣味を洗練し、判断を清める。真理は、わたしたちを高め、高尚にし、そのパン種の働きを、静かに絶え間なく続け、人間全体が聖霊の働きのもとに、光栄ある器となるまで清められ、罪のない純潔な天使と交わるにふさわしい真理を受ける者とするであろう。……

人類のために、あのように無限の代価を払って買いとられた救いは、すべての信者によって、もっとも尊い器の中に入れておかれるべきである。あのように価値あるものはいつも高く評価されるべきであり、真理を受けた人々がとどめているがぎつさや荒々しさによって、安っぽいものにされたり、平凡なものにされたりしてはならない。(原稿 43、1891 年)

イエスのうちにある真理は、冷たい命のない形式的なものではない。……この真理は暖かく、イエスの臨在の証拠に満ちるものである。……

わたしたちは世界に対してメッセージを担っている。この使命には十字架が含まれている。真理はそれが自己否定と自己犠牲を要求するので、人々に喜ばれない。そうであれば、真理を担う者が、真理を忠実に語るとき、その1つ1つの言葉や行為によってキリストの愛が自分たちを動かしていることを示すことは、なんと重要なことであろう。真理は……いつもすばらしく、イエスのうちにあるがままの真理を生きる者は、そのすばらしさが現れるために、いかにして真理を人々に示すことができるかを研究すべきである(原稿 62、1886 年)

真理の宝は、何ものにも勝っており、いかなる価でもそれを売ってはならない。(手紙 8、1873 年)

匹敵するものがない聖書

「主の言葉は清き言葉である。地に設けた炉で練り、7度きよめた銀のようである。」(詩篇 12:6)

聖書よりすばらしい本はない。聖書には競走相手がいない。その教えを受けるならば、その知識によって心に力と健康が与えられる。その教えを理解するためには、生徒は神の無限の知識を把握することを要求される。神の言葉は、男女にいかにして神の息子、娘となるかを教える。いかなる本も、いかなる研究もこれと比較することは出来ない。その中に含まれる原則は、聖書の著者の力と性質に似て全能である。死すべき人間の頭脳が到達できる最高の教育を与えることができるのである。(手紙 64、1909 年)

聖書のページを時々開いて読み、すぐ聖書から離れてしまうならば安全ではない。……頭脳を集中して、この最高の仕事に当たり、はつきりした興味をもって研究するならば、あなたは神聖な真理を理解できるであろう。そうする者は、頭脳が非常に高い所まで到達できるのに驚くであろう。(ユース・インストラクター 1893 年 6月29日)

神の言葉を研究する思いは発達する。他のいかなる研究よりも、聖書の研究は理解力の増加に役立ち、あらゆる能力に新しい力を与える。それによって、思いは広く高尚な真理の原則に接することができる。全天が人間の思いとの緊密なつながりを持つようになり、知恵と知識と理解とを人に与えるのである。

平凡な著作物を取りあげ、靈感を受けていない人の書物を常食とするならば、思いは萎縮し、安っぽいものとなる。……理解力は、知らず知らずのうちになじみのある事柄についての知識に順応するので、これらの有限なものを考えていると理解力は弱められ、その能力は収縮し、しばらくすると発達できなくなってしまうのである。……

この恩恵期間の生涯のうちに得たすべての知識、わたしたちの品性形成に役立ち、わたしたちを光のうちの聖徒の仲間となるのにふさわしいものとする知識が、真の教育である。それは、わたしたちとまた他の人の生活に祝福をもたらし、未来に安全と計り知れない富と、不死の命をもたらす。(原稿 67、1898 年)

1月30日

魂のための確実な薬

「主はあなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし。」(詩篇 103:3)

キリストはその言葉をわたしたちに与え、男女にあらゆる霊的な病に対する治療法を備えてくださった。み言葉は人間の品性の試金石である。それは病気を指摘し、治療の処方を書く。み言葉のうちにあらゆる霊的病気の処方箋がある。単純な神の命令は、頭脳と身体に健康的な影響を及ぼす。もし信仰をもって忠実にそれを実行するなら、その治療は確実なものとなる。(手紙 42、1907 年)

謙遜な人の前に神のみ言葉の約束が開かれる。神は「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は……願いを求めるがよい。そうすれば与えられるであろう」(ヤコブ 1:5) と宣言される。神は決してむなしいままでは帰されない。そして、神のすべての言葉によって生きる者は、知的道徳的能力が発達するであろう。その人は、命のみ言葉に対して、心を開く前よりもはっきりした理解力を持つであろう。信仰によって、知恵と知識の生きた源につながる者は、知力が成長し発達するであろう。知力がサタンの支配下にある者は、その人全体がゆがめられている。しかし、真理の力が心に入るときその影響は人間全体に及ぶ。(原稿 23、1899 年)

主は、ご自分の聖なる言葉のうちにみ声を発しておられる。これらの祝福されたページは、教訓と命に満ち、真理と調和している。これは行動の完全な規則である。教えが与えられ、原則が示されており、これらはたとえある特別な事情については述べられていなくとも、人生のあらゆる状況に適用することができる。完全な信仰の体系と正しい行動の基準に関して、重要なものは1つも余さず、ことごとく示されている。わたしたちの手に神が要求しておられるすべての義務は明示されている。……聖書を導き手とし、勧告者として謙遜に誠実に受ける者は、正しい道から誤ることはないのである。(手紙 34、1891 年)

聖書により頼みなさい。神のみ言葉から助けを得ようと真剣に学ぶ者は、主によって魂に光が見出されるであろう。あなたの働きは主によって認められ、あなたの香りは命の香りとなる。(オ・サリフ・ニワ会議 1903 年 10 月 1 日)

真理によって心を強くせよ

「『わたしの見ないものをわたしに教えられたい。もしわたしが悪いことをしたなら、重ねてこれをしない』と。」(ヨブ 34:32)

あなたの聖書を取り、あなた自身を天のみ父の前におき、「わたしを照らし、何が真理であるかを教えて下さい」と言いなさい。主はあなたの祈りを聞き、あなたの魂に聖霊が真理を教えられるであろう。自身のために聖書を研究するとき、あなたは信仰のうちに確立される。心に神のみ言葉を蓄えつつ聖書を絶えず研究するということは非常に大切なことである。なぜならあなたはクリスチャンの交わりから離れ、神の子の交わりの特権を持ち得ないような所に置かれるかもしれないからである。あなたには心の中に隠された神のみ言葉という宝が必要である。反対が襲って来たとき、あらゆることを聖書に求めるためである。……

わたしたちは終末時代に生存しており、今は最も大きい欺きが受け入れられ信じられ、真理が捨てられている時代である。多くの者は暗黒と不信仰に追いやりられ、聖書から弱点を拾いだし、迷信的な研究をし、非聖書的な説と空しい哲学の空論を振り回している。しかし聖書から完全な知識を求めるのはすべての人間の義務である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 2 月 6 日)

真理は、それが実生活に移されてはじめて効果がある。もし、神のみ言葉があなたのしている習慣を譴責し、またあなたが大事にしている感情、あなたの精神を罪であるとした場合、神のみ言葉から離れるのではなく、あなたのしている悪から離れ、あなたの心をイエスによって洗い清めていただかねばならない。あなたの過ちを告白し、それから離れなさい。

(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 30 日)

ただ単に真理に同意するだけで、キリストの言葉を行なわないようなことがあってはならない。真理は自分に適用されるべきであって、それは男女を岩なるキリストに導き、それに落ちて砕けるように導くであろう。そのとき、イエスはご自身の聖なるご品性にかたどってわたしたちの品性を形成される。もしわたしたちが神のみ声を聞くならば心に平安が宿るであろう。自己と自負と欲望が譴責され、謙遜の衣をまとい、キリストの学校における謙虚な学生にならねばならない。(ビュー・アンド・ヘラルド 1893 年 10 月 31 日)

2月1日

イエスに導いていただく

「イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』」（ヨハネ 14:6）

ああ、この異郷の地では寄留者であり旅人であるわたしたちが……キリスト、すなわち道であり、真理であり、命であるお方を把握できればよいのだが。主は、「だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」と言われる。主の示される道は、わかりやすく明確なため、罪の重荷が山のようになっている最悪の罪人でも、道に迷う必要はない。おののいてたずね求める者は一人として真理の道を見出せないことはなく、また清く聖なる光のうちに歩めないこともない。なぜなら、イエスが導かれるからである。

その道は非常に狭く、非常に清いので罪はそこの中に入ることを許されない。その道にいたる入口はすべての人に用意され、落胆し、疑い、おののいている魂でさえも「神はわたしを心に掛けてくださらない」と言うことはできない。すべての魂は、キリストの御目から見て尊い。……サタンが地上の君として勝ち誇り、この世界を自分の王国だと宣言し、わたしたちが罪にそこなわれ、墮落したときに、神はそのひとり子を使命者として天よりつかわし、地のすべての住民に「わたしはすでにあがないしを得た。滅び行くすべての者たちのためにのがれの道を備えた。わたしはあなたのために備えられたあなたの釈放証書をもっており、これは天地の主が印されたものである」と宣言される。……

あなたがたが受け入れないのは、あなたがたのために贖われた資格にきずがあるためではない。ゆるしを与える愛をあなたが喜ばないのは、み父とみ子の恵みとあわれみと愛が広くないためでもなく、自由に与えられないためでもない。……もし、あなたが失われたならば、それは命を受けるためにキリストのもとに行かなかったためである。

神は罪のゆるしの祝福と、不義のゆるしと、義の賜物を、神の愛を信じてその救いを受け入れる者に与えようと待っておられる。キリストは悔い改めた罪人に、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた」（ゼカリヤ 3:4）と言おうと待っておられる。キリストは、神と人をつなぐ輪である。イエス・キリストの血は罪人のために語る雄弁な嘆願である。（原稿 32 a、1894 年）

人は精金よりも尊い

「わたしは人を精金よりも、オフルのこがねよりも少なくする。」(イザヤ 13:12)

純潔と高貴と潔白を培うことにより神に栄光を帰して、人間の価値を正しく認める人が少ない。……人に与えられた短い時間は非常に尊いものである。恵みの期間が去る前に、神はご白身の力と人間の弱さを結合させようと望んでおられる。……本当に神を愛する者は、神より与えられたタラントを向上させ、他の人を祝福したいと望む。彼らが入るために天の門は広く開かれ、栄光の王の唇より祝福が彼らの耳に豊かな音楽となってあふれるであろう。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(マタイ 25:34)。

このように贖われた者は、イエスが備えられた住居に歓迎される。そこにおいては、彼らの同伴者は地上の悪人たち—偽りを言う者、偶像礼拝者、不純な者、あるいは不信仰な者—ではなく、サタンとそのたくらみに勝利し、神の助けを通して完全な品性を形づくった人々と交わるのである。地上において彼らを悩ましたすべての罪深い傾向と不完全さは、キリストの血によって取り除かれ、真昼に輝く太陽よりも明るい主の栄光の輝きと尊さが彼らに与えられるであろう。道徳的美しさと主の品性の完全さは彼らの外面的な輝きよりもはるかに価値あるものとして彼らのうちに輝くであろう。大いなる白き御座のまわりで、彼らは罪のない天使の特権と尊厳にあずかっている。

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者達のために備えられた」(コリント第一 2:9)。彼のものになる栄光の嗣業について考えるとき、「人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができるか」(マルコ 8:37)。彼は貧しいが、しかしこの世界が決して与えることのできない富と尊厳を持っている。罪から贖われ清められた魂には、神の奉仕のために捧げられたその尊い力もすべて含めて、非常にすぐれた価値がある。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1884 年 4 月 3 日)

2月3日

わたしは自分のものではない

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのだ、人の奴隷となってはいけない。」
(コリント第一 7:23)

自分自身を完全に自分のものとみなすことは、なんと自然なことであろう。しかし、靈感の書は、「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。」「あなたがたは、代価を払って買い取られたのだ」と記している(コリント第一 6:19、20)。……人間同士の関係において、わたしたちはわたしたちに委任された知的、身体的能力の所有者である。神との関係においては、神の賜物の管理者または借用人である。

時間は賢明に、熱心に聖霊の清めのもとに用いねばならない。わたしたちは持ち物においても知的、または身体的能力においても、何が正しく何が誤りであるかをはっきりと悟って、それを用いなければならない。神は人間に委ねられたあらゆる力の明確な所有権を持っておられる。神はご自分の知恵によって、人間が神のあらゆる賜物を用いるように要求しておられる。神はそのみ名の栄光のために正しく用いられるすべての力を祝福して下さるであろう。言葉のタラント、お金、財産などすべては神の栄光のためと、み国の進展のために蓄積されるべきである。神はその留守の間にその財産をわたしたちが管理するように命じておられる。すべての管理者には神のみ国の進展のために、特別な働きが与えられている。それを免除されている者は一人もない。(手紙 44、1900 年)

青年は、代価を払って買い取られたものであるから、自らを尊重するように教育されねばならない。(手紙 117、1898 年)

キリストはその神性の上に人性をまとい、人間のために身代金を払われた。そして人が、無限の価をもって備えられた命を正しく評価するよう望んでおられる。(原稿 23、1899 年)

真に悔い改め、改心した心で生ける神の言葉に従うことと、自由な天国の精神をもって奉仕することと、神がひとり子を送ってあなたのために死に渡されたほどの、神の信頼に足るものであることを証明することはあなたの特権である。もしあなたの個人的救い主としてキリストを信じているならば、あなたは、すべての恵みと、クリスチャン品性の完成に必要なあらゆる霊的資質を受けるであろう。あなたが自分のための犠牲を感謝していることをあらわしなさい。そして、世の標準に従って形づくられ形成されることによって、あなたの宗教的な告白を愚弄することは、あまりにも重大で容認できないことだとみなしなさい。(原稿 167、1897 年)

キリストの血によって買われたもの

「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」（ペテロ第一 1:18、19）

あなたは、あなたが自分自身のために何でも好きなことをする自由があると考えてはならない。あなたは主の所有物である。キリストは、ご自身の血という代価をもって買われた。あなたの体は主の誉れのための器として、主に聖別されるべきである。それは、キリストが買われたものである。だからすべての力と、すべての器官は主の義のための道具である。サタンは、あなたの頭脳の力と意志力とを求めるが、それは主に属するものである。「わたしはわたしのものではない。キリストの買われたもののあらゆる部分を注意深く、清く用いねばならない」ことをいつも考えよう。……

サタンは、あなたを望みのない魂として彼の戦車に縛りつけようと試みている。しかし、キリストはあなたを自由にされたので勝利を大声で叫ぼう。あなたを自由にし、贖うために死なれたイエス・キリストを通して、完全に十分に栄光のうちに勝利するために、能力と力がないと言って神のみ名を傷つけてはならない。勝利、しかり、勝利。あなたの意志を1瞬1瞬神の側におきなさい。希望と勇気をもって考えなさい。信仰によってサタンに対抗し、信仰の完成者、また導き手であるイエスを仰ぎみて、「わたしの救い主イエスよ。わたしは弱い。あなたの助けなしでは何もできない。あわれなわたしの魂をあなたにゆだねます」と言いなさい。そのとき、あなたはイエスの臨在を考え、神と共に歩き、あなたの命はキリストと共に神のうちに隠されるであろう。……そして自分の弱さとあわれさを考えてサタンに栄光を帰することなく、純潔で神聖な雰囲気自分に自分を置くであろう。あなたは慰め主、きよめ主として聖霊を受けるであろう。……あなたは静かな憩いを神のうちに持つであろう。あなたは「イエスは生きておられる。彼が生きておられるのでわたしも生きています。主はわたしのためにサタンに打ち勝たれた。だからわたしは1度も悪霊に征服されないようにしよう。わたしの主であり導き手である方を辱めるのではなく、このお方の聖なるみ名によって勝利し、征服者以上の者となろう」と言う。（手紙 31、1893 年）

2月5日

神はご自身の財産を所望される

「ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる。『恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。』」（イザヤ 43:1）

すべての男女は、イエス・キリストによって支払われた身代金で贖われている。「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買い取られたのだ」（コリント第一 6:19、20）。—しかも神のみ子の尊い血という代価をもって買い取られたのである。（原稿 42、1890 年）

主に自分自身をささげていると否にかかわらず、わたしたちは、主のものである。「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買い取られたのだ。」あなたがたは創造によって主のものとなり、贖いによって再び主のものとなった。それゆえにわたしたちは、自分自身を喜ばせることができると考える権利はない。わたしたちの持っているものはすべて主のものである。わたしたちには、何の所有権もなく、自分が存在する権利もない。わたしたちのすべての金銭と時間とタラントは神に属し、神がわたしたちに与えられた働きを完成するように貸し与えられたものである。神は「わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい」とわたしたちに責任をお与えになった（ルカ 19:13）。（手紙 31、1893 年）

自分自身に仕えることをあなたの仕事にして、神があなたに要求しておられることに関して無関心になってはならない。あなたは主の所有物である。……イエスは、無限の価をもってあなたを買い取られた。あなたの思考は主のものであるから、純潔に保たねばならない。それを主にささげなさい。主から何もほめられるべきものはない。神のものでないもので神にささげることのできるものは何もない。神のものを自分の手許に残していないだろうか。神のものを奪ったり、神の時間、また神のタラントや力を質に入れたりしてはならない。神はあなたの愛情を求めておられる。それを神にささげなさい。これらは主ご自身のものである。神はあなたの時間を 1 瞬 1 瞬要求しておられる。それをこのお方にささげなさい。それはこのお方ご自身のものである。このお方はまたあなたの知性を神にささげようように求めておられる。それを主にささげなさい。それは主ご自身のものである。……

主は主ご自身の財産を所望なさる。わたしたちが主に魂と身体と霊をささげたとき、またわたしたちが食欲を啓発された良心の支配下に置き、すべての欲と戦い、自分たちがそれぞれの臓器を神の奉仕のための神の所有物だと考えていることを示すとき、またわたしたちの 1 切の愛情を主の思いに調和させ、「キリストが神の右に座しておられる」「上にあるもの」の対象に思いをしっかりとどめるならば—そのときわたしたちは主ご自身のものをおささげしたと言えるのである。「すべてのものはあなたから出ます。われわれはあなたから受けてあなたにささげたのです」（歴代志上 29:14）。（手紙 23、1873 年）

神の財産を管理せよ

「キリストは、わたしたちの父なる神の御旨に従い、わたしたちを今の悪の世から教い出そうとして、ご自身をわたしたちの罪のためにささげられたのである。」(ガラテヤ1:4)

あなたがたの価は高いものである。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一6:20)。あなたが自分のものだと考えていても、それは神のものである。神の財産を管理しなさい。神は無限の価をもってあなたを買い取られた。あなたの思いは主のものである。自分に属さず、主イエス・キリストに属する身体を誤用する権利をだれが持っているだろうか。いろいろな形の放縱によって、知力と体力がだんだんと弱くなってゆくことをだれが喜ぶことができるのか。

神はすべての人間に頭脳をお与えになった。それを神の栄光のために用いるように望んでおられる。それによって人は、滅び行く同胞を救う努力において神と協力できるようになったのである。だれもあり余る頭脳の力や思考機能をもっているわけではない。わたしたちは、知力と体力を訓練し教育して、これらのキリストが買い取られた人間の機能を、最善の状態で用いるようにしなければならない。これらの力を強くするためにできることはすべてしなければならない。なぜなら神はわたしたちがもっと、さらにもっと神の有能な共労者となることを喜ばれるからである。……

出エジプト記の中には、主がイスラエル人に荒野で幕屋を造るようお命じになったときに、このお方がある人々に特別な能力、タラント、そして細工を施す技術を受け、それからその働きのために彼らを任命されたことが記されている。主はわたしたちにも同じ方法を取られる。……たとえわたしたちが小さなところから出発したとしても、忠実に働く報いとして、わたしたちのタラントを倍加して祝福して下さるであろう。(原稿8、1904年)

キリストはあなたのために死なれたのだから、あなたは神にあつて生きるべきである。精錬され、純潔にされ、聖化されたあなたの理性の力が神にささげられるようにしなさい。主は人間全体の聖化を要求しておられる。身体と同じように思いも高められ、高尚にされるべきである。神は思いも魂も身体も要求しておられる。(原稿167、1897年)

イエスのみ名を名乗る人々には、イエスご自身のものより他に何かをイエスにささげる力はない。主はすべての人間を無限の価を払って買い取られた。わたしたちは現在も永遠までも主のものである。(手紙51b、1894年)

2月7日

神を相談役とせよ

「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によってあなたがたは、いやされたのである。」(ペテロ第一 2:24)

キリストは十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。もし有限な者はそれを贖うことができないのなら罪は何に違いはないであろうか。もし神だけがそれを消しうるとしたら、罪ののろいは何に違いはないであろうか。キリストの十字架がすべての人間に対して、罪の刑罰が死であることを証している。……ああ、道徳観念をおさえつけ、神のみ霊の印象に対して無感覚にする何か強い惑わしの力があるに違いない。わたしはキリストの大使として……神の恵みを得るのに勤勉になるように、あなたがたに勧める。人生を誤らないため日ごとに神の恵みが必要である。

あなたは自分を管理し、計画を立て、それを自分の判断に従って実行する資格があると思うかもしれない。これはあなたにとって、まただれにとっても安全ではない。わたしは自分の知っていることを話している。神をあなたの勧告者とし案内者としなさい。神を求める者は無駄になることはない。……霊的進歩なく尊い恵みの期間を過ごしてはならない。いかなる場合においても、あなたの道徳的能力が萎縮するのを許してはならない。……

あなたが失うか獲得するかのどちらかである、永遠の栄光である天とその魅力はあなたの前にある。あなたはそのどちらの側であろうか。どちらを選んでいるかをあなたの生活と品性が証明するであろう。多くの人が永遠の重要なことがらに対して無関心であるのを見て、わたしは非常に心配している。彼らは小さな事柄であちこちに忙しくしており、彼らの思いから大いなることが追い出されている。彼らは祈る時間もなく、見守る時間もなく、聖書を調べる時間もない。彼らはみなあまりにも忙しく、そのため未来の生活に必要な備えをしていない。彼らは、クリスチャン品性を完全にし、天国に入る資格を獲得するために時間をささげることができない。

もしあなたが、永遠の命を持ちたいなら、熱心になり働かねばならない。……神の道と神のみ心を選ぶことによって、神に栄光を帰しなさい。神はあなたの賢い勧告者、確かな変わらない友となって下さるであろう。(手紙 23、1873 年)

天から下りている綱

「おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:8)

もしできるならば、人を引き上げるために天から降りている綱の長さを測りなさい。はかり縄の長さの見積もりとして出すことができる唯一のものは、カルバリーを示すことである。(原稿 6、1893 年)

墮落した人類は、世の初めよりほふられた小羊なくして、神の樂園に家を持つことはできない。そうであれば、わたしたちはキリストの十字架を高めないのであろうか。……

天使の完全さは、天において失敗した。人間の完全さは、祝福の樂園エデンにおいて失敗した。安全を希望する者は、地においても天においても、神の小羊を見上げなければならない。救いの計画は神の愛と正義をあらわし、小羊の血によって贖われた人たちとまだ墮落しなかった世界を罪に陥らないように守る。すべての者を救うことのできるお方の血を完全に信頼することにわたしたちの唯一の希望がある。キリストのカルバリーの十字架上における死は、この世においてわたしたちの唯一の希望であって、来たるべき世界においてもわたしたちの主題となるであろう。ああ、わたしたちは、贖いの価値を理解できない。もしわたしたちが理解しているとすれば、それについてもっと語るはずである。ご自分の一人子のうちにある神の賜物は、理解することのできない愛の表れである。律法の名譽を保ち、なおかつ違反者を救うために、神はこれ以上のことをなすことがおできにならなかった。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1132)

イエスは、十字架を天から来る光線の中に置かれた。それは十字架が人の目をとらえるためであった。十字架はみ顔の輝きが直接当たるところにおかれ、十字架を見上げる者が、神と神がつかかわされたイエス・キリストを見るように、また知るようにされた。わたしたちが神を見るとき、同時にその魂を死ぬまで注ぎ出されたお方を見る。十字架を見るとき、その視野は神にまで広げられる。そして、罪に対する神の憎しみを理解するようになる。十字架を見るとき、罪に対する神の憎しみを見るが、同時に罪人に対する死よりも強い愛を見る。この世界に対して十字架は、神が真理であり、光であり、愛であるということに論争の余地がない証明である。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1133)

2月9日

わたしの望みの中心

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」(ガラテヤ 6:14)

クリスチャンから十字架を除くことは、昼から昼を照らす太陽を除き、夜から大空にある月と星を、除くようなものである。キリストの十字架は人を神に近づけ、神と人とを互いに和解させるものである。望みのないあわれな状態から人類を救い、ご自分の御許へ引き寄せるためにみ子に与えられた苦しみと十字架を、み父はご覧になっておられた。神は、父親としての愛とやさしい同情をもって、十字架を見ておられた。十字架はほとんど見失われてはいるが、しかし十字架なくしてはみ父とのつながりもなく、天のみ座におられる小羊との1致もなく、義と真理の道に帰ろうとする迷える者も受け入れられることがなく、審判の日に罪人は望みがないのである。十字架なくしては、わたしたちの強い敵の力に勝利するための方法もない。人類のすべての望みは十字架にかかっている。(原稿 58、1900 年)

罪人が十字架に来て、自分を救って下さったお方を見上げるとき、彼は本当の喜びに満たされるであろう。何故ならば、彼の罪はゆるされたからである。十字架の下にひざまずくとき、彼は人間が到達できる最高のところに着いている。神の栄光の知識の光は、イエス・キリストのみ顔に輝き、ゆるしの言葉は、生きよ、罪人よ、生きよ。あなたの悔い改めは受け入れられた。なぜならば、わたしはすでに贖い代を得たからであると言われる。

十字架を通してわたしたちは、天の父が無限の永遠に続く愛をもって、わたしたちを愛しておられることを学び、母親が迷える子に対する同情にも勝って神はわたしたちをみそば近くに引き寄せて下さることを知る。パウロが叫んだように「わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものは、断じてあってはならない」と叫ぼう。カルバリーの十字架を誇りとすることは、わたしたちにとっても特権である。自分を全くわたしたちのためにささげられたお方に献身することは、わたしたちの特権である。そのとき主のみ顔から輝いている愛の光が、わたしたちの顔にも輝き、暗黒の世界にもそれを反映するようになるであろう。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1133)

キリストの血の力

「血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。」(レビ記 17:11)

キリストは世の初めからほふられた小羊であった。多くの者たちにとって、古い制度においてはなぜこれほど多くの犠牲のささげ物が必要だったのか、なぜこれほど多くの血の犠牲が祭壇にささげられたのか理解できない。しかし、人々が心に明記すべき大真理は、「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない」ということであった(ヘブル 9:22)。すべての血の犠牲には、「世の罪を取り除く神の小羊」が予表されていた(ヨハネ 1:29)。

キリストご自身は礼拝のユダヤ制度の創始者であり、型や象徴を通して霊的な天の事物の影を示された。……今日わたしたちは型が、世の罪のためにささげられた犠牲のキリストという実体と合致した時代に生きている。わたしたちは、光が増し加えられている時代に生きていながら、キリストがすべての人のために十分な犠牲を払われたという遠大で重要な真理から益を受けている人々が何と少ないことであろう。正義が要求するものを、キリストはすでにご自身という供え物のうちにささげてくださった。そして、「わたしたちは、こんなに尊い救いをなおざりにしては、どうして報いを逃れることができようか」(ヘブル 2:3)。命の賜物を拒む者は言い逃れることができない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年1月2日)

ご自分の命をわたしたちのために流されたお方が、それを嘆願するために、そしてご自分を受け入れるすべての者のために仲保なさるために生きておられることを、神に感謝しよう。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめてくださる。」(ヨハネ第一 1:9)。イエス・キリストの血はわたしたちをすべての罪から清める。その血はアベルの血よりも力強く語る。なぜならキリストはわたしたちの仲保のために永遠に生きておられるからである。わたしたちはイエスの血の力を、絶えず目の前に見ていなければならない。この生活をきよめ、命を支える血は、生きた信仰によって自分のものとするとき、わたしたちの希望となる。わたしたちはその計り知れない価値をますます感謝する必要がある。なぜなら、わたしたちが信仰によってその徳をわがものと主張し、良心を清く保ち、神との平和を保つときにのみ、それはわたしたちのために弁護するからである。

これはゆるしの血としてあらわされている。それは救い主の復活と命を切り離すことができないほど密接につながっており、神のみ座から絶えず流れている川として、また、命の川の水として描写されている。(SDA パイプ・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7巻 947, 948)

2月11日

キリストの人性は黄金の鎖

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じ様に試練に会われたのである。」(ヘブル 4:15)

キリストの勝利と服従は、本当の人間としてのそれであった。わたしたちの主の人性に対する誤った見解のゆえに、結論を出す際、わたしたちは多くの過ちを犯している。もし、わたしたちがサタンと戦う際に持ち得ないような力をキリストが持っておられたと考えるならば、主の人性の完全さを破壊することになる。彼に与えられた恵みと力は、信仰によって主を受け入れるすべての者にも等しく与えられる。

キリストのみ父に対する服従は、人間に要求されている服従と同じものである。人間は、神の力と人間の手段を結合させてサタンの試みにあたらない限り、勝利することができない。同じように、イエス・キリストも聖なる力をお持ちになった。キリストはわたしたちの世界に大いなる神に仕える小さな神として来られたのではなく、神の聖なる律法に従う一人の人間として、わたしたちの模範になるためにこの世に来られた。主イエスは、神が何をなし得るかを示すためにこの世に来られたのではなく、人間がその危機に当たって、神の力に助けられ信仰を通して何をなし得るかを示すために来られた。人は神のご性質に、信仰を通してあずかり、彼が遭遇するあらゆる試みに勝利しなければならない。

主は、アダムすべての息子娘らに、イエス・キリストにある信仰を通して、わたしたちが今持っている人間性のままイエスに仕えるように要求しておられる。主イエスは、罪によってできた大きなみぞに橋をかけられた。彼は、天と地とを、有限な人間と無限の神とを結び合わされた。この世の贖い主であられるイエスは、ただ人間が神の律法を守ることができるのと同じ方法によってのみ、それを守ることができたのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 929)

わたしたちは、自分たちがまるで人間ではないかのように神に仕えるのではなく、神のみ子によって贖われた者として、今持っている性質によって主に仕えるべきである。キリストの義を通してわたしたちは、神の前に許された者として、また、1度も罪を犯さなかった者として立つのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1142)

神のみ子の人間性は、わたしたちにとってすべてである。これは、わたしたちの魂をキリストに、キリストを通して神に結びつける黄金の鎖である。(セレクトエッド・メッセージ 1 巻 244)

父のみもとにおられる助け主

「わたしの子たちよ。これらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。」(ヨハネ第一 2:1)

イエス・キリストは、魂が絶望するようなことがおこらないように、どれほど注意を払われたことであろう。また、サタン of 火のような攻撃から守るためにいかに魂の周りを囲われたことであろう。もし、いろいろな試みを通してわたしたちが脅かされ、罪に欺かれても、主はわたしたちをお見捨てになったり、滅びるままにしたりはなさらない。否、わたしたちの救い主はそのような方ではない。・・・主はわたしたちと同じようにあらゆる点で試みられた。そしてそのように試みられたので、試みられた者をどのようにして助けるかをご存じなのである。わたしたちの十字架にかけられた主は、恵みのみ座のみ父のみ前でわたしたちのために懇願しておられる。このお方の贖いの犠牲によってわたしたちは、ゆるしと義認と聖化を求める。ほふられた小羊は、わたしたちの唯一の望みである。わたしたちの信仰は主を見上げ、きわみまで救うことができるお方としてつかむ。そして、十分に満ち足りた供え物の香りはみ父に受け入れられるのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 948)

もし、あなたが失敗し、罪の反逆をしたとき、祈れないと考えてはならない。かえって、もっと熱心に主に求めなさい。(手紙 6, 1893 年)

イエスの血は背信者のために、背信した者たちのために、反逆的な者たちのために、大いなる光と愛に対して罪を犯した者のために、力と効力をもって嘆願している。サタンはわたしたちのすぐそばに立って、わたしたちを非難し、同時にわたしたちの助け主は、神のすぐそばに立ってわたしたちのために懇願しておられる。助け主に委ねられたことで、それが失敗に終わったことは 1 度もない。わたしたちは助け主に信頼することができる。なぜなら、彼はわたしたちのためにご自分の功績を訴えられるからである。……彼は、最も低い者のために執り成しをし、最も抑圧され、苦しみ、試みられ、誘惑される者のために執り成しをされる。彼は高く手を上げて、「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ」と嘆願なさる (イザヤ 49:16)。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 948)

わたしは、よきおとずれの調べを地の果てまで響かさねばならない。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」。ああ、何と尊い贖いであろう。この真理は何と広大なものであろう。すなわち、わたしたちが生きた信仰をもって、神は十分にわたしたちを許すことがおできになると信じてこのお方に求めるその瞬間、愛するキリストのために、神がわたしたちを許してくださるというこの偉大な真理は。(レビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 9 月 21 日)

神と人をつなぐ輪

「そこでまた、彼はいつも生きていて彼らのために執り成しておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」（ヘブル 7:25）

キリストは、神と人をつなぐ輪である。主は彼の名をとなえる者に個人的仲保を約束しておられる。主はご自分の義の徳全体を嘆願者の側において下さる。キリストは人間のために懇願しておられる。また、神の助けを必要としている人間は、神のご臨在の前に、世のためにご自分の命をささげられたお方の影響力を用いて自分のために祈る。神の御前において、キリストの徳をたたえ、それを認めるとき、その香がわたしたちの仲保のために与えられる。だれがこの大なるあわれみと愛の価値をはかることができようか。キリストの功績の徳を通して神に近づくとき、わたしたちは主の祭司の衣服をもっておおわれる。主はわたしたちをびったりとご自分のわきにおかれ、わたしたちをご自分の人としてのみ腕でいだき、その1方神としてのみ腕で無限なるみ座をつかまれるのである。主はその功績をよい香りとしてわたしたちの香炉に置き、わたしたちの嘆願を力づけてくださる。主はわたしたちの祈りを聞き、答えると約束しておられる。（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初巻・ コメント] 6 巻 1078）

サタンの奴隷状態とその奉仕から逃れたいと望み、インマヌエルの君の血染めの旗の下に立つ者は、キリストの仲保によって守られるのである。仲保者としてのキリストは、み父の右に立ち絶えずわたしたちを見ておられる。なぜなら主の仲保によってわたしたちを守ってくださることは、ご自分の血によってわたしたちを贖うことと同じように不可欠だからである。もし、1 瞬でもわたしたちを手放したら、サタンはいつでもわたしたちを滅ぼすのである。（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初巻・ コメント] 6 巻 1078）

真心から罪を悔いている者の祈りが天に上るとき、キリストはみ父に「わたしは彼らの罪を負いました。あなたの前に罪なき者として下さい」と言われる。このお方は彼らからその罪をお取りになると、その代りに真理と愛の栄光の光を彼らの心に満たして下さい。（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初巻・ コメント] 7 巻 930）

わたしたちはキリストの仲保を絶えず必要としている。日ごとに、そして朝に夕に、へりくだった心で祈りをささげる必要がある。そのとき、恵みと平安と喜びの解答が返ってくるのである。「だから、わたしたちはイエスによって、さんびのいけにえ、すなわち、彼の御名をたたえるくちびるの実を、たえず神にささげようではないか」（ヘブル 13:15）。（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ 初巻・ コメント] 6 巻 1078）

キリストの完全さのうちにあって傷がない

「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。」(第二コリント 5:21)

ゆるしと義認は1つであり、同じものである。信仰を通して信者は、サタンの罪の子という反逆の立場からイエス・キリストの忠実なものという立場へ移るが、それは、先天的な善のためではなく、キリストの養子として受け入れられたためである。罪人は罪のゆるしを受ける。なぜならこれらの罪が、彼の身代りまた保証人であられるお方によって負われたからである。主は天のみ父に、「これはわが子です。わたしは死の刑罰から彼に猶予を与え、彼にわたしの生命保険証書—永遠の命—を与えました。なぜなら、わたしは彼の罪の苦しみを彼に代わって受けたからです。彼もまた、わたしの愛する子です」と言われる。このようにして人はゆるされ、キリストの義という美しい衣を着て、罪なき者として神の御前に立つのである。……

キリストがわたしたちのとがを負い、ご自分の義を着せてわたしたちを救われたので、わたしたちの罪とがをゆるすことは、み父の特権である。主の犠牲は、義の要求を完全に満たした。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1070)

多くの人は自分たちの品性の欠点のゆえに、キリストの立てられた標準に到達することは不可能であると感じているが、そのような人がしなければならないことはただ、1 歩ごとに神の力強いみ手の下に自らをへりくだらせることである。キリストは、人間がなした働きをもってその人を評価するのではなく、働きを遂行する精神をもって評価される。

人間が重荷を持ち上げ、謙遜な思いでそれを持ち運び、自分に頼らず主に頼るのを主がご覧になるとき、彼らの働きに主の完全と能力を加えられ、またそれはみ父に受け入れられる。わたしたちは、愛する御子のうちに受け入れられる。罪人の欠点は、主われらの義の完全と満ちみちた徳によっておおわれる。真剣な意志と悔い改めた心をもって、神の要求に沿って生活しようと謙遜に努力する者は、み父からあわれみとやさしい愛をもって見守られる。み父は、そのような者たちを従順な子らと見なされ、彼らにキリストの義を与えて下さるのである。(手紙 4、1889 年)

2月15日

義とする信仰

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。」(ローマ5:1)

信仰による義は多くの者にとって神秘である。罪人はその罪を悔い改めたとき、神によって義とされる。罪人は、カルバリーの十字架上のイエスを見る。……彼は自分の唯一の希望として贖罪の犠牲をあおぐ。神に対する悔い改め—なぜなら神の政府の律法が破られたから—と、すべての不法から罪人を救い、清められるお方としてのイエス・キリストに対する信仰を通して、彼は仰ぎ見るのである。

キリストの仲保の働きは、人間の罪と苦しみと悲慘が人間の反逆によって始まったと同時に始められた。人を救い、神と1致させるために神の律法は廃されなかった。しかしキリストはご自分が人のために罪となられることによって保証人と救済者としての働きを引き受けられた。それによって人は、御父と1つであられるお方のうちに、またそのお方を通して神の義となることができるのである。罪人は神が彼らの罪をゆるされ、彼らが受けるべき刑罰を免除し、そしてあたかも彼らが本当に正しく罪を犯さなかったかのように扱い、彼らを神の恩寵のうちに受け入れ、あたかも義人であるかのように扱われるときにはじめて、神によって義とされることができる。彼らは、キリストの着せられた義を通してのみ義認される。み父はみ子を受け入れられ、またひとり子の贖いの犠牲を通して罪人を受け入れられるのである。……

福音を信じ、またイエス・キリストを世の贖い主として信じている者は幾千という。しかし、彼らはその信仰によっては救われない。……彼らは、悔い改めないし、自分の罪をゆるされる救い主として、キリストに頼る信仰も持っていない。彼らの信条は悔い改めに至らせないのである。……

義とされる信仰は、いつも最初に真の悔改めを生み、その次に信仰の実であるよい働きを生む。よい実を結ばないで救いに至る信仰はない。神は罪人の身代わりとして、キリストをこの世にお与えになった。キリストを個人の救い主として宣言し、価高い贖いの供え物の功績を本当に信じる瞬間に、神の御前に罪人は義とされる。なぜならば彼はゆるされたからである。(原稿 46、1891 年)

神の愛するみ子のうちに受け入れられる

「これは、賜わった栄光ある恵みを、わたしたちがほめたたえるためである。それによって神はわたしたちがその愛する御子のうちに受け入れられるようにして下さったのである。」(エペソ 1:6 英語訳)

み父はみ子にあらゆる名誉をお与えになり、ご自分の右に座らせ、あらゆる支配と権威の上に置かれた。彼は十字架にかけられたお方を大いなる喜びと樂しみをあらわして受け入れ、栄光と榮譽の冠を授けられた。そして大いなる贖いを受け入れるに当たって示されたみ父の恵みは、神の民にも示された。愛のうちに自分たちの関心をキリストと1つにした者たちは、愛される御子を通して受け入れられる。彼らは、このお方の最も深いへりくだりのうちにこのお方と共に苦しんだ。そして、このお方の栄光は、彼らにとって大きな関心事である。なぜなら、彼らはこのお方にあって受け入れられているからである。神はみ子愛するようその民を愛される。キリスト、インマヌエルは神を信ずる者たちの間に立ち、選民に神の栄光をあらわし、ご自身の汚れなき義の衣をもって、彼らの欠点ととがをおおわれる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1115)

「主はおのれを恐れる者とそのいつくしみを望む者とをよみせられる」(詩篇 147:11)。しかし、主の御目から見て、わたしたちに価値があるのはわたしたちのために払われた犠牲によるのである。わたしたちが神の御前に尊いものとみなされるのは、着せられた義による。キリストのゆえに神は主を畏れる者をゆるされる。神は罪人のうちにその悪を見ないで、彼らが信じているみ子の姿をご覧になる。この方法を通してのみ、神はわたしたちをよみせられる。「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ 1:12)。

主がご自分の神の民のうちに愛するみ子の品性がますます完全に表されるようになるのをご覧になるとき、このお方はますます彼らを喜び、満足される。神と全宇宙は、キリストの死が無駄にならなかったことを喜び賛美する。キリストの上にそのとがが置かれるので、信じる罪人は罪なき者と宣告される。キリストの義は負債者の口座に記載され、貸借対照表の名前の反対側には「ゆるされた」「永遠の命」と書き込まれるのである。(原稿 39、1896 年)

2月17日

試みを経た石—わたしたちの贖い主

「それゆえ、主なる神はこう言われる、『見よ、わたしはシオンに一つの石をすえて基とした。これは試みを経た石、堅くすえた尊い隅の石である。』」(イザヤ 28:16)

わたしたちの贖い主は、「試みを経た石」である。実験がなされ、大きなテストが行われたが、完全に成功なされた。失われた世界を救う神の目的はキリストにあって成就した。この「試みを経た石」ほど厳しい試みと試験を経た基礎はない。主エホバはこの基礎の石が十分耐えうることを知っておられた。その上に、世のすべての罪が積み重ねられるはずであった。主に選ばれた者はあらわされ、天国の門がすべて信じる者に開かれ、その言い尽せない栄光が勝利する者に与えられるはずであった。

「試みを経た石」はキリストであって、人間の頑なさによって試みられた。わたしたちの救い主よ、あなたは重荷を負われました。あなたは平和と休息をお与えになりました。あなたは試みられ、自分たちの試練をあなたの同情に、自分たちの悲しみをあなたの愛に、自分たちの傷をあなたのいやしに、自分たちの弱さをあなたの強さに、自分たちの虚しさをあなたに満ちみちた徳にたずさえてきた信者たちによって実証されました。そして、決して、決してただ一人の魂をも失望させられませんでした。イエスよ、わが試みを経た石よ、わたしは1瞬1瞬あなたの許へ行きます。あなたのご臨在のうちにあるとき、わたしは痛みから引き上げられます。「わが心のくずおれるとき、……わたしを導いてわたしの及びがたいほどの高い岩にのぼらせてください」(詩篇 61:2)。

神との楽しい交わりは特権である。主のあがないの血と清める義とは、信じる者にとって非常に尊いものである。「この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものである」(ペテロ第一 2:7)。

わたしたちが汲むことのできる生ける力の泉について瞑想するとき、わたしは、神のいつくしみ深さを考えていたなら持つことができたはずの喜びを、多くの人々が失っていることを悲しく思う。わたしたちは神の息子娘となり、主の清い宮において成長しなければならない。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上にたてられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」(エペソ 2:19、20)。これはわたしたちの特権である。(ビュー・アンド・ワルド 1895 年 3 月 19 日)

最良の友イエス

「世には友らしい見せかけの友がある、しかし兄弟よりも頼もしい友もある。」(箴言 18:24)

彼らのすぐそばに立っておられる目に見えない来客を意識して、絶えずその方を見上げている人がいかに少ないことであろう。いかに多くの人が主のご臨在を無視することであろう。もしわたしたちがイエスを待遇するように他の人を待遇するなら、どれほど失礼だと思われることであろう。

あなたと一緒に、一人の友人がいたとしよう。そして、道で知人に会い新しく見つけた知人に、全く気を取られて先の友人を無視してしまったとしたら、人々はわたしたちの友人に対する忠誠について、またわたしたちが彼をどれくらい尊重しているかその度合いについてどのように思うだろうか。しかしながら、わたしたちはイエスをこのように扱っているのである。わたしたちはこのお方がそばに連れ立っておられることを忘れる。会話の中にも彼の名前が全然出てこないのである。……わたしたちは世の仕事のことを語るとき、それが魂を傷つけることなく、かつ重要なことであれば、それでわたしたちがイエスを辱めることにはならない。しかし、わたしたちの友や仲間との交わりにおいて、イエスについて語らないことは、イエスを辱めることである。彼はわたしたちの最良の友であり、わたしたちは彼と語る機会を求めねばならない。……わたしたちは絶えず彼を見、わたしたちの会話は神に対して不敬にならないものでなければならない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1893年1月9日)

わたしは多くの者が「どこでイエスを見つけることができよう」と尋ねているのを知っている。多くの者は主の臨在を求め、その光を求めていながら、なおもどこで主を見出すべきかを知らず、だれを慕うべきかを知らない。イエスは自ら姿を隠されることはない。主を探して虚しく終わることもない。主は「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中に入って彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」と言われる(黙示録 3:20)。イエスはわたしたちが主のご臨在を受け入れるように望んでおられる。わたしたちは心の戸を開いて主を迎えねばならない。しかし主は二心の者を受け入れられない。もし、富に仕え、心を自我と誇りで満たすならば天よりの来客を入れる余地はなくなるであろう。主は魂の宮が清められ空になるまでそこに住んでくださらない。クリスチャン生活において失敗する必要はない。イエスはわたしたちのために大いなる働きをしようと待っておられ、全天はわたしたちの救いに興味を持っている。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885年11月24日)

2月19日

イエスはいつも近くに

「しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない』と言われた。」(マタイ 14:27)

わたしは激しい嵐の中にある弟子たちについて考える。船は激しい風と暴風に翻弄されている。弟子たちは望みなき者のように、その努力をあきらめ、怒った波は死を告げていた。その嵐の最中に光る形が泡立つ大波の上を歩いて来た。……嵐の中から声が聞こえて来た。「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない。」

いかに多くの人が、今日の危機の時代にあってさかまく波に向かって必死に漕いでいることか。月と星は嵐の雲に隠され、失望と落胆のうちに「もう駄目だ、どんなに努力してもなんにもならない。わたしたちは滅びるのだ。櫓を漕いだが成功しなかった」と言うことであろう。ガリラヤのさかまく海で、主が弟子たちのもとへ歩かれたように、嵐の時に主はわたしたちのすぐそばにおられるのである。わたしたちは神に静かに強く、しっかりと迷わずに頼らねばならない。……わたしたちは神に強くするということ個人的経験を持たねばならない。キリストはわたしたちの舟に乗っておられる。キリストが船長でありわたしたちのみならず舟のことも心配しておられることを信じよう。……

その夜の舟の中は弟子たちにとって、後になってしなければならない大いなる仕事に対する教育を受けるための学校であった。もっと尊い働きのために、もっと献身して努力を集中するように教育を受けるのは、このような暗黒の試みの時である。嵐は、弟子たちの舟が難船するように送られたのではなく、彼らを個人的に試験し確かめるために送られた。……

教育の時はまもなく終わる。疑いと不確実の雲の中をさ迷い歩いて、無駄に過ごしている時間はもうない。…わたしたちはイエスの側近く立たねばならない。だれも…苦しい教訓を避けたり、激しい訓練の祝福を失ったりしてはならない。…

人生の条件やわたしたちの仕事が何であっても、確かな案内者がおられる。わたしたちがどんな状態にいても、主がわたしたちの相談役である。わたしたちが孤独であっても、いつまでも信頼できる友がおられるのである。(手紙 13、1892 年)

わたしたちの偉大な模範

「そこで、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思い見るべきである。」（ヘブル 3:1）

わたしはあなたがたの前に偉大なる手本を示す。……このお方は、だれでも人の子らがするように現実にサタンの試みにあい、それに抵抗された。この意味ではじめて人間の完全な模範となり得た。彼はご自分を人が遭遇するあらゆる試みにあうような人間となられた。彼はアダムの子としての弱点と悲しみを負われた。

主は「兄弟たちと同じように」なられた（ヘブル 2:17）。彼は人間が感じるように悲しみも喜びも感じられた。あなたと同じように主の体は疲れることもあった。主の思いはあなたの思いと同じように、悩んだり困惑させられたりする可能性もあった。もし、あなたに困難があるとすれば、主もまた同じであった。サタンは主を誘惑することができた。主の敵は主を怒らすこともできた。支配者が彼の肉体を懲らしめ、兵士が彼を十字架にかけられることもできたが、彼らはわたしたちにそれ以上のことをすることはできない。イエスは人間として困難と争いと試練にさらされた。このお方は苦しみを通してわたしたちの救いの将となられた。このお方はわたしたちよりも重荷に耐えることがおできになった。それはこのお方がつぶやかず、短気を起こさず、不信仰にならず、不平をこぼされなかったからである。しかし、これはアダムの子らのだれの苦しみよりも軽かったという証拠とはならない。……

主の少年時代と青年時代は、比較的世に知られていなかったが、その期間是最も重要な時であった。主はこの世に知られない期間に、健康なからだと活発な頭脳の基礎を築かれた。彼は「成長し、その霊も強く」なられた（ルカ 1:80）。ユダヤの丘を歩かれるイエスは、年齢の圧力にかがみこんだ男の姿ではない。彼は壮年の力を持っておられた。イエスはあなたと同じ年齢の時も1度はあった（この文章は、若い人にあてた手紙の1部である）。あなたの環境とあなたの人生の今の時期におけるあなたの計画も、主は体験された。この危険な時にあって、あなたを見過ごしにされることはない。主はあなたの危険をご覧になる。主はあなたの試みをよく知っておられ、主の模範に従うように招いておられる。（手紙 17、1878 年）

2月21日

キリストのみ姿をうつして

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(第二コリント 3:18)

イエスを仰ぎ見、彼の徳とあわれみと純潔を深く考えるならば、魂の中に罪深いものに対する全き嫌悪と、義に対する激しい切望と渴きを生じさせる。イエスをもっと緊密に知れば知るほど、自分の品性の欠点を認めるようになり、それをイエスに告白し、それらのものを捨て去るために、聖なる力である聖霊と協力し、魂の底から悔い改めるであろう。(手紙 10、1893 年)

イエスがこの世に送り、わたしたちの品性をキリストの姿に変えたと約束されたのは、慰め主聖霊であった。そして、この約束が成就するとき、鏡のようにわたしたちは主の栄光を反映するであろう。すなわち、キリストを見る者はそのような品性になり、だれかがその人を見るならば鏡から輝き出るようにキリストの品性が輝き出るのを見るであろう。わたしたちが自覚しなくても、日ごとに自分の道からキリストの道とそのみ旨に変えられてゆき、主の品性の素晴らしさに至るであろう。そのようにしてわたしたちは、キリストのうちに成長し無意識にその姿を反映するであろう。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1097)

わたしたちがイエスの生涯を模倣するのは、主から顔をそむけることによってではなく、主を語ることによってであり、主の完全さを熟考することによってであり、趣味を精錬し、品性を高めようと求めることによってであり、愛と信仰を通して、また熱心な辛抱強い努力によって、完全な模範に近づくことによってである。キリストの知識—このお方の言葉、習慣、そしてその教訓の教え—を得ることによって、わたしたちは自分たちが非常に綿密に研究してきた品性の徳を取り入れ、非常に賞賛してきた精神を吹き込まれるようになる。イエスはわたしたちにとって「万人にぬきんで」「ことごとく麗しい」お方になられるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1098、1099)

魂が偉大なる光と真理の創始者との密接な関係に入るとき、神の御前においての正しい関係がはっきり示される。そして、自我は死に、誇りは低くせられ、魂の上に強い線でキリストによって神のみ姿が描かれるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 6 巻 1098、1099)

キリストを愛して

「このように、聖にして悪も汚れもなく、罪人とは区別され、かつもろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとってふさわしいかたである。」（ヘブル 7:26）

キリストの品性は、比類がないほどすばらしく、すべての純潔と誠と麗しさとほまれあることを含んでいる。わたしたちは、キリストが楽しみのために宴会やダンスホールに行かれたりしというようなことは聞いたことがない。彼は完全な優雅と礼儀正しさを備えておられた。キリストには未熟さがなかった。彼はその生涯の初期においてすら、高い立派な知力のためにきわ立っておられた。彼の青年時代は怠惰のために浪費されることもなく、官能的な楽しみや自己放縦に浪費することもなく、益のないことに無駄使いをされることもなかった。彼の少年時代から壮年時代にかけて、1時間たりとも間違つて費やしたり、誤つて用いられたりしたことはなかった。……

イエスは、罪なきお方であり、罪の結果に恐れられたことはなかった。この点を除いて主の条件はあなたのそれと全く同じである。主の上にふりかからなかったような重荷を、あなたが負うことはない。彼の経験されなかった悲しみをあなたが感ずることはない。あなたと同じように主の感情も友と告白する者から無関心に扱われ、うとんじられるとき、傷つけられた。あなたの道にはとげがあるだろうか。キリストの道には十倍ものとげがあった。あなたは悩むことがあるだろうか。主も同じであつた。模範としてキリストは、いかにふさわしいお方であろう！
……

靈感を受けた記録はイエスについて次のように言っている。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」（ルカ 2:52）。イエスは年と共に知識も発達していった。彼は節制の生活を送られた。彼の尊い時間は、娯楽のために費やされなかった。彼は健康な身体と心の真の力を持っておられた。彼の身体と頭脳の力は、あなたや他の青年たちのそれと同じように成長させ、発達させることができた。神のみ言葉が彼の研究であつたが、あなたもそれと同様でなければならない。

イエスをあなたの標準としなさい。このお方のご生涯に倣いなさい。彼の品性を慕いなさい。キリストが歩かれたように歩きなさい。あなたの力を計り知れない広く大きい永遠の物事に結びつけるならば、あなたの思想は広くなり、あなたの知的な力は新しい泉となるであろう。（手紙 17、1878 年）

2月23日

神に栄光あれ

「イエス・キリストの僕また使徒であるシメオン・ペテロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストとの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々へ。」(第2 ペテロ 1:1)

神の義と救い主イエス・キリスト—これは瞑想の大いなる主題である。キリストとその義を瞑想するとき、自己の義や自己に栄光を帰す思いの入るすきがない。この章の中には行き詰まりがない。キリストの知識のすべての段階において、継続的な進歩がある。……

神に栄光を帰さねばならない。預言者は次のように言っている。「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。誇る者はこれを誇りとせよ。すなわち、さとうあつて、わたしを知っていること、わたしが主であつて、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである」(エレミヤ 9:23、24)。……

わたしたちはキリストの知識、すなわち、栄光と徳の知識に召されている。それは、イエス・キリストのうちにわたしたちにあらわされた聖なる品性の完全な知識であつて、わたしたちが神と交わることができるようにするものである。…神性にあずかることによって、霊的にどれほど広く高く深く到達できるかを、人間の思ひはほんのわずかしき理解できない。(ユース・インストラクター 1895 年 10 月 24 日)

わたしは、安っぽい標準にしか到達しようとしないう若い男女にぜひ勧告したい。ああ、どうか主が彼らの思いに感化を及ぼしてくださり、彼らが品性の完全さを見ることができるよう。わたしたちは危機の時代に生存している。彼らは、愛によって働く信仰、魂を清める信仰を知らねばならない。キリストだけが、わたしたちを助け、勝利を与えることができる。キリストがわたしたちのすべてのすべてでなければならない。このお方が心のうちに宿らなければならない。動脈を流れる血液のように、このお方の生命がわたしたちのうちに循環しなければならない。主の霊は、わたしたちが他の人々にキリストのように聖なるものとなるように感化を及ぼすための生き返らせる力とならなければならない。(ユース・インストラクター 1895 年 10 月 31 日)

もし、わたしたち青年がこの章に書いてある原則に注意して、これを実行するならば、なんと正しい側に大いなる影響力をもたらすことができよう！(ユース・インストラクター 1895 年 10 月 31 日)

力の最高の使い方

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることでもあります。」(ヨハネ 17:3)

神を理解し、喜ぶことは、人間の力の最高の働きである。これは、キリストの恵みによって、わたしたちの愛情が聖化され、高尚にされたときにのみ、なし得るのである。……キリストの中にみ父の栄光の輝きと、神の本質の真の姿があらわされている。わたしたちの救い主は「わたしを見た者は、父を見たのである」と言われた(ヨハネ 14:9)。キリストのうちに魂の命がある。心がこのお方向に向けられ、このお方の素晴らしさを真剣に愛情をもって慕いもとめ、このお方の栄光を熱心に探るときに、わたしたちは命を発見する。キリストとの交わりによってわたしたちは、命のパンを食べる。

わたしたちが自分たちの注意力を小さなことにそらされ、キリストを忘れ、このお方から離れて他の者と交わるとき、わたしたちは神と天国から迷い出させる道へと自分たちの歩を進めているのである。キリストはわたしたちの愛情の中心でなければならない。そのとき主に生き、主の精神を持つてであろう。……

天の輝きは何からなっているであろうか。贖われた者の幸福は何であろうか。キリストはすべてのすべてである。彼らは神の小羊を言葉に言い表せない喜びをもって仰ぐであろう。彼らは彼らが愛し、礼拝して来た主に喜びの賛美と礼拝の歌をささげるであろう。この歌は、地上で彼らが習い歌いはじめたものである。彼らはイエスに信頼することを学び、天国にふさわしい品性を形づくっていった間に、彼らはイエスに信頼をおくことを学んだ。彼らは地上において神のみ心に自分の心を調和させていった。キリストにある喜びは、彼らが地上でキリストにおくことを学んだ愛と信頼に比例したものとなる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 5 月 30 日)

神がいつもわたしたちの思想のうちになければならない。わたしたちが道を歩くときも、仕事をするときも神と交わらねばならない。わたしたちはあらゆる人生の目的と目標において、主がわたしに何をするように求めておられるかと尋ねなければならぬ。どのように、わたしのためのあがないの代として尊い命を与えて下さった主を、お喜ばせたらよいだろうか。このようにして、古代のエノクのように、神と共に歩む者となり、エノクが神を喜ばせたという証は、わたしたちのものとなるのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 5 月 30 日)

2月25日

主を知るために

「わたしたちは主を知ろう、切に主を知ることを求めよう。主は暁の光のように必ず現れいで、後の雨のようにわたしたちに臨み、前の雨のように地を潤される。」(ホセア 6:3 欽定訳)

わたしたちは、聖書と真理についていくらか知っていると思うかもしれないが、真理の啓示は、人間の有限な洞察力が理解しえるものをはるかに越えている。キリストはわたしたちを導いておられる。わたしたちが彼に会うために天にあげられ、神の都に至る真理の門をくぐるとき、主は命の水のほとりにわたしたちを導かれ、わたしたちを始終教育してくださり、もしわたしたちが耐えることができたならば、この地上でわたしたちの理解力にあらわされたはずの事柄を語ってくださるのである。しかし、わたしたちは十分に速く歩んでいない。わたしたちは、あまりにも退歩している。わたしたちは天に向かって前進していない。それゆえに、輝かしい光線をはなつて来るべき光が、わたしたちの備えができていないために来ることができないのである。わたしたちは、地上の楽しみのために、この世へ1歩後退し、それからまた天国へ1歩進む。それから、また1歩後退し、また天へと1歩進むのである。

もし、あなたが主を知ろうと望むならば、主はあしたの光のように必ずあらわれることを知るであろう。暁の光が出るときは、はじめはほのかな明かりであり、そしてその輝きはぐんぐん増し加わり、太陽がすべての美しさをもって空を照らすまで、増し加わってくる。……今、もし神の栄光がこのお方の望むとおりにわたしたちを照らすとしたら、わたしたちはとてもそれに耐えることができないのである。……そのためにキリストは人性のうちに来られたのであった。もし、主がそのすべての栄光のうちに来られたとしたら、わたしたちは主に耐えられなかったであろう。

もしわたしたちが彼に従いたいと望むなら、そしてときどき1,2歩後戻りしては、またなんとか全力をあげて前進しなければならないようなことをしないならば—後退したままの状態でいたり、後退し続けたりするよりは、全力をあげる方がよいのではあるが、わたしは自分たちがそれほど多くの時間と、それほど大きな力とを失わずにすむならいいのにと願う—、わたしたちはもっと神と天国について知るようになり、もしわたしたちがそれらを把握しさえすれば、神がわたしたちのために備えられた尊い真理と豊かな恵みを、もっとよく知るようになるであろう。神はわたしたちのために素晴らしいものを用意しておられる。(原稿 49, 1894 年)

喜びの帯

「あなたはわたしのために、嘆きを踊りにかえ、荒布を解き、喜びをわたしの帯とされました。」(詩篇 30:11)

幸福を探し求めている多くの者は、希望がくじかれることになる。なぜなら、彼らが間違っただけで求めるからである。真の幸福は自己満足の中に見出されることはなく、義務の道の中にある。神は人間が幸福であるように望んでおられる。神は人間に十戒の戒めを与え、それに従うことにより、家庭の内外において幸福をもたらされた。もし人間が道徳的潔白を守り、原則に従い、自分の力を統御するならば、不幸になるはずはない。そのつるを神のまわりに巻きつけるならば、魂は不信と墮落の中にあっても栄えるであろう。しかし多くの者はいつも幸福を求めていながら、それを受けていない。その理由は人生の小さな義務を果たさず、小さな礼儀作法を守らず、幸福のかかっている原則にそむいているためである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 9 月 1 日)

霊的生活の流れはよどんではならない。生ける源からの水がわたしたちのうちになければならない。その泉は永遠の命をあふれさせ、自我と生まれつきの心を押し流すであろう。……多くの者は、キリストと自分の間にかきねをつくって、彼らの心に神の愛が流れてこないようにしていながら、義の太陽が見えないとつぶやいている。彼らは自分を忘れ、イエスのために生きなければならない。そのとき、天の光は彼らの心に喜びをもたらすであろう。……

イエスが幸福をもたらし、天をわたしたちの届くところに移すために死なれたという事実が、わたしたちの絶えざる感謝の主題でなければならない。神の創造された御業の中にまぎ散らされている美は、神の愛の表現であり、わたしたちの心に喜びをもたらすものである。わたしたちは悲しみと喜びの水門を開く。もし、わたしたちが地上の問題やささいな事柄に心を奪われるならば、わたしたちの心は、不信と陰鬱と不吉な予感に満たされるであろう。もし、わたしたちの愛情が上にあるものとどまるならば、イエスの御声は、わたしたちのたましいに平和を語られるのである。つぶやきはやみ、いらいらした思いは、贖い主に対する賛美のうちに消えてしまう。神の大いなるあわれみのうちに住み、神の小さな賜物にも無頓着になることがなければわたしたちは喜びのうちに入れられ、心の中に主に対する歌が宿るのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 9 月 22 日)

2月27日

目的のある人生

「ヤコブの神をおのが助けとし、その望みをおのが神、主におく人は幸いである。」
(詩篇 146:5)

あなたの唯一の安全と幸福は、キリストをあなたの絶えざる相談役とすることにある。あなたがもし、この広い世の中でイエス以外の友を持たなければ幸福である。あなたの休みのない気持ちとホームシックと孤独感は、あなたにとってよいことである。あなたの天の父は、あなたの最も熱心に望む友情と愛と慰めを、神のうちに発見するようにと教えておられる。……

何事も心配しすぎてはいけない。毎日のあなたの義務を静かに遂行しなさい。最善を尽くして神に助けを求めなさい。……毎日「わたしは神のためにこの仕事をしている。わたしは自分のためや、自分の栄光のためではなく、神の栄光のために生きている」と考えなさい。自分の心に頼らず、主に信頼しなさい。主にあなたの思いとあなた自身を委ねなさい。もし、喜びと慰めを感じられなくても失望してはならない。望みつつ信じなさい。あなたは神の事柄において尊い経験を得ることができる。イエスの名によって、失望と疑いに勝利するまで戦いなさい。悲しみと落胆と暗黒を大きくしてはならない。……神の広い確かな約束の中に憩いなさい。疑わずにその約束を信じなさい。(手紙 2 b、1874 年)

自分たちの同胞を益し、祝福することを求め、また自分たちの贖い主に誉れと栄光を帰そうとして、目的をもって生きている人々こそ、この地上で真に幸福な人々であることをわたしは見た。その一方で人々が満足せずに休みなく、あれこれ探したり試したりしながら幸福を見出したいと願っているのに、いつも失望してつぶやいているのを見た。彼はいつも欠乏しており、決して満足することがない。なぜなら、彼がただ自分のためだけに生きているからである。善を行い、生涯において自分の分を忠実に果たすことを、あなたの目的としなさい。(手紙 17、1872 年)

だれか他の人を慰め、親切なやさしい言葉で、試みと戦い悩みにあっている人を祝福しなさい。このように元気づける希望に満ちた言葉で人を祝福し、彼に重荷を負ってくださる方を示すとき、あなたは思いもよらない素晴らしい平和と幸福と慰めを自分のために発見するであろう。(手紙 2 b、1874 年)

言い尽くせない喜びと 満ちみちた栄光

「あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて言葉に尽くせない、輝きに満ちた喜びにあふれている。」(ペテロ第一 1:8)

キリストは「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」と言われた(ヨハネ 7:37)。あなたは泉をくみつくした事があるだろうか。否、それはくんでもつぎないものである。必要が生じたらすぐに飲み、また飲むことができる。泉はいつもあふれている。もし、あなたが1度でも泉から水を飲むならば、この世の破れた水がめから飲んであなたの渇きをいやしたいと思わなくなるであろう。あなたは、多くの楽しみや娯楽や遊びや陽気な集りから、喜びを求めることをしない。その理由は、神の都の喜びを造り出す流れから、あなたはすでに飲んでいるからである。そのとき、あなたの喜びは満たされるであろう。(レ・ユー・アンド・ヘルト 1892年3月15日)

なぜ、キリストの宗教は、その立派な魅力と力ある真の姿として現わされていないのだろうか。なぜわたしたちは、イエスの素晴らしさを人々に示さないのだろうか。なぜ、わたしたちは生ける救い主がおられ、暗黒の中にあっても光の中を歩くように主と共に歩くことができ、彼に頼ることができることを証ししないのだろうか。……

雲がわたしたちと太陽の間をさえぎっているのを見たことはあるが、わたしたちはなげき悲しんで、太陽が再び見られないのではないかと恐れて、荒布を身にまとったようなことはしなかった。そのようなことに全然心配しないで、ただ雲が去って太陽があらわれるのをできるだけ快活にして待っている。試練と誘惑のときもちょうど同じである。雲が、義の太陽の光をわたしたちから隠しているかもしれない。しかし、わたしたちは贖い主がそのみ顔を隠すことは決してないことを知っている。主は、愛と優しいあわれみをもってわたしたちを見ておられる。わたしたちの確信を放棄してはならない。それには大きな報いが伴っているのである。かえって、雲がわたしたちの魂のまわりにたれこめるとき、義の太陽を見ることができるところにわたしたちの目をしっかりと留め、そして自分たちに生ける救い主がおられることを喜ぼう。わたしたちが楽しんだ光がいかに美しかったかを考え、絶えずイエスを思いなさい。そうすれば、光は再びわたしたちの上に輝き、陰気な思いは逃げ去る。わたしたちはキリストにある喜びを味わい、シオンの山に向かって歌いながら行くのである。(レ・ユー・アンド・ヘルト 1892年3月15日)

2月29日

永遠の事柄を見なさい

「わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。」(コリント第二 4:18)

教会が世に従うことをやめて、キリストの義の衣を着る時に、教会の前には、輝かしい栄光の日の夜明けがある。教会への神の約束は、永遠に堅く立つであろう。……こうして聖なる力を備えた真理は、どんな堅固なとりでもつきぬけ、どんな障害にも勝利するのである。

骨折りと犠牲のご生涯の間、神のみ子を支えたものは何であったか。キリストはご自分の魂の労苦の結果をご覧になって、満足された。キリストは、永遠をご覧になり、ご自身の屈辱を通してゆるしと永遠のいのちを受けた人々の幸福をご覧になった。キリストの耳は、あがなわれた者たちの歓喜の叫びを聞きとられた。主はあがなわれた人々が、モーセと小羊の歌をうたっているのをお聞きになった。

われわれは、未来の、祝福された天の幻を持つことができる。聖書には未来の栄光の幻、神のみ手によって描かれた光景が示されている。そしてこれらは、神の教会にとって大事なものである。信仰によってわれわれは、永遠の都の入口に立ち、この世の生活においてキリストと協力し、キリストのために苦しむことを名誉とみなしてきた人々に与えられる、恵み深い歓迎のことばを聞くのである。「わたしの父に祝福された人たちよ」ということばを聞くとき、彼らはあがない主の足もとに冠を脱ぎ捨てて、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい。……御座にいますかと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」と叫ぶ(マタイ 25:34、黙示録 5:12、13)。

あがなわれた者たちは、自分たちを救い主に導いてくれた人たちにそこであいさつをし、全員が一つとなって、人間に神のような永遠のいのちを与えるために、ご自分のいのちを犠牲にされたかたを讃美する。闘争は終わる。艱難も争いも終わる。あがなわれた者たちが、ほふられて、勝利の征服者として再び生き返られた小羊こそすばらしい、という喜びの歌をうたいだすと、勝利の歌が全天に満ちる。(患難から栄光へ下巻 310, 311)

になるのです。彼らがご自分に従わず、その木からとって食べたのをごらんにあって、このお方は彼らを信用できないことをお知りになりました。ですから、彼らは死んで、神さまが彼らをとられたちに戻らなければなりませんでした。なんという悲しい日だったことでしょう。

この小さなテストに、どれほど多くのことがかかっていたことでしょう！もし彼らがそれを知っていさえいたら！

ああ、彼らはテストに失敗しました。二人ともです。そしてその実をとって食べたとたんに、彼らは何かが問題だとわかりました。何かがまずいことになっていました。彼らは人生ではじめて心配しました。神さまは彼らのことをどう思われることでしょう。彼らはあれこれ思いめぐらせました。このお方は彼らになんとおおせになるでしょう。

そのとき、恐れがおとずれました。日がしずんでいき、すべてのものの影が長くなっているときに、彼らはおそれてささやき声で語りました。とにかくいっさいの幸せがとつぜん彼らの生活からなくなってしまいました。なぜなら、彼らは人生ではじめて悲しく、みじめで、不幸に感じたからです。エデンの中で、彼らにとってもはや喜びはありませんでした。彼らはただ逃げてくれたかったのです。

なんと悲しいことでしょう！しかし、これが今日も不従順の結果ではないでしょうか。それはただすべてを台なしにするのではないのでしょうか。

白菜と豆腐のチヂミ

■材料

絹ごし豆腐 1/2 丁 (150g)

白菜 (2cm 長さに切る) 1/2

にら (4cm 長さに切る) 1 束

にんにく 2 片

塩昆布 30g

【A】

小麦粉 1.5 ～ 2 カップ

かたくり粉 大さじ 3

すりごま (白) 大さじ 2

■つくり方

1. 白菜とにんにくを千切りにして、塩昆布とよく混ぜてもみ、白菜サラダにします。
2. ボウルに【A】を入れ、豆腐を加え、よく混ぜます。泡立て器で豆腐をつぶすようにして、なめらかになるまで混ぜます。
3. 白菜サラダとにら、すりごまを加えてよく混ぜます。
4. フライパンにごま油を熱し、2 の生地を流し入れ、こんがりと両面を焼きます。
5. 食べやすく切って、器に盛ります。

お好みでしょう油をかけてお召し上がりください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第8話

愛のテスト(II)

まちがいなく彼は彼女に言ったことでしょう、「でも、わたしは神がこの実を取って食べてはならないと命じられたと思う」と。そしておそらく彼女はこう答えたことでしょう、「あら、問題ないわ。へびはわたしに死なないだろうと言ったし、見て、わたしの身に何も起こらなかったわ。たぶん、神さまがまちがわれたのでしょう」。

しかし、神はまちがいをおかしてはおられませんでした。このお方はアダムとエバにその気からとって食べてはならないとお命じになったのには十分な理由がありました。それは彼らが本当に神様を愛しているかを知るための神様の方法だったのです。このお方は彼らにたくさんのものを与えてくれました。このお方が考えつくあらゆるよいものです。そしてこのお方は今度は彼らの愛を切望されました。彼らは本当にこのお方を愛するだろうか。彼らはいつもこのお方を愛するだろうか。いかにしてそれを確かめることができたでしょう。一つの決して失敗しない愛のテストがあります。それは、従順です。もしわたしたちがお父さんやお母さんを本当に愛しているなら、よろこんで彼らに従います。ですから、神さまはアダムとエバに、その木からとって食べてはならない

と言われたのです。それは単純なテストでした。もし彼らがまごころから一心に神様を愛していたならば、それにさわらなかったはずでした。そのとき、神さまは彼らが永遠に生きることをお許し



(65 ページに続く)